松浦市文化財調査報告書　第21集

松浦市内遺跡確認調査(6)

土地開発に伴う市内遺跡確認調査報告

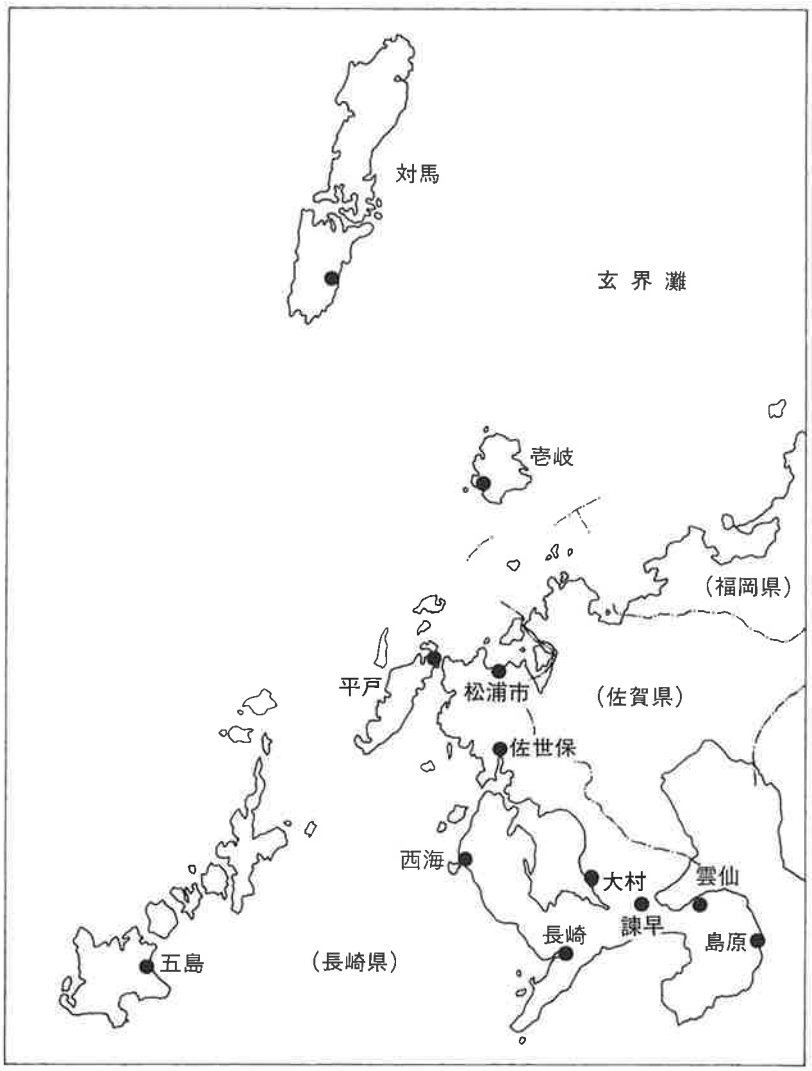
2006

長崎県松浦市教育委員会

松浦市文化財調査報告書　第21集

松浦市内遺跡確認調査(6)

土地開発に伴う市内遺跡確認調査報告



2006

長崎県松浦市教育委員会

報告書抄録

ふりがな	まつうらしないいせきかくにんちょうさ
書名	松浦市内遺跡確認調査（6）
副書名	
巻次	
シリーズ名	松浦市文化財調査報告書
シリーズ番号	第21集
編著者名	中田敦之
編集機関	松浦市教育委員会
所在地	〒859－4502　長崎県松浦市志佐町里免365番地　　ＴＥＬ　0956－72－1111
発行年月日	西暦　2006年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
市内遺跡（しないいせき）	長崎県（ながさきけん） 松浦市（まつうらし） 市内一円（しないいちえん）	42208	－	－	－	16. 7.26 ～ 17.12.19		土地開発に伴う確認調査・本調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
市内遺跡	集落跡 包含層	旧石器時代 縄文時代 弥生時代 中世	甕棺墓 柱穴 土壙	ナイフ形石器 台形石器 黒曜石製石鏃 弥生土器 土師器 須恵器 輸入陶磁器 （青磁・白磁） 土錘・石錘 石鍋	

発刊にあたって

長崎県松浦市は、県北部の北松浦半島に位置しており、海をはさんで朝鮮半島に近いという地理的な条件を生かして、古くから大陸との交流が盛んでありました。それは旧石器時代にさかのぼり、その後の時代も大陸との関係を抜きにしては語れません。なかでも中国後漢時代の青銅鏡である内行花文鏡を出土した栢ノ木遺跡、中国福建省・折江省及び朝鮮半島産の陶磁器類が多数出土した楼楷田遺跡などはその代表的な遺跡です。

平成18年１月１日に市町村合併特例法に基づき松浦市、北松浦郡福島町・同鷹島町の一市二町で新生「松浦市」となりました。県内で11番目の合併となり、面積は約130㎢、人口約２万８千人の行政規模となりました。特に歴史上では、鷹島町には文永・弘安の役（元寇）に関連した鷹島海底遺跡があり、元寇という歴史的大事件の実態解明のため海底遺跡の調査及び引き揚げられた遺物の保存処理を進めることになりました。鷹島海底遺跡は世界的にも知られている海底遺跡であり、今後の松浦市の文化財保護行政において大きな柱となります。

本報告書は、旧松浦市で調査した平成16年度から17年度にかけて行った各種開発と埋蔵文化財の保護調整のための確認調査・本調査の記録です。開発に伴う市内遺跡確認調査は、地道な作業ではありますが、こうした作業が地域文化の向上に必ず役立つと信じ、今後もより一層努力していきたいと存じます。

最後になりましたが、関係者の方々のご理解とご協力により円滑に調査を進めることができましたことを心から感謝を申し上げ、地域住民の皆様はもとより、広く市民各位の文化財保護行政への理解を深める一助となることを祈念いたしまして発刊のごあいさつといたします。

平成18年３月31日

長崎県松浦市教育委員会

教育長　宮　本　勝　行

例　　言

1．本書は、平成16年度から平成17年度にかけて松浦市内において実施した発掘調査のうち、主に開発によって壊される前に記録によって保存することを目的に行った本調査と、遺跡の内容を知るために行った試掘・確認調査の概要を記載している。
2．調査は、国庫補助及び県費補助を受けて松浦市教育委員会生涯学習課が主体となって実施した。
3．調査にあたっては、長崎県教育委員会学芸文化課、松浦市建設課・下水道課・農業委員会をはじめ多くの方々にご理解・ご協力を賜った。
4．調査は、生涯学習課中田敦之があたった。
5．現場での遺構・土層の写真撮影は、中田があたり、遺物の写真撮影も、中田があたった。
6．遺物の実測は中田があたり、木村大輔が協力した。トレースについては、宮崎朝美の協力を得た。
7．本書における図面・写真については、松浦市生涯学習センター（松浦市志佐町浦免1483番地１）郷土資料室に保管している。
8．遺物については、松浦市教育委員会が保管の任にあたり、報告書の刊行後は、松浦市立調川小学校の郷土資料室にて一部を展示予定である。
9．写真図版の縮尺は、不統一である。
10．本書の執筆・編集は中田があたった。

本　文　目　次

第Ⅰ章　はじめに
　1．調査に至る経緯 …… 1
　2．調査関係者 …… 2
第Ⅱ章　地理的・歴史的環境
　1．地理的環境 …… 5
　2．歴史的環境 …… 6
第Ⅲ章　平成16年度確認調査の概要
　1．刈萱城跡 …… 9
　2．田口高野遺跡 …… 11
　3．大堤遺跡 …… 12
　4．長蔵坊遺跡 …… 16
　5．栢ノ木遺跡 …… 17
第Ⅳ章　平成17年度確認調査の概要
　1．久保園遺跡 …… 23
　2．寺ノ尾Ｃ遺跡 …… 33
　3．栢ノ木遺跡 …… 34
第Ⅴ章　まとめ …… 41

挿　図　目　次

第１図　松浦市内遺跡分布図(1/100,000) ……3～4
第２図　松浦市地質図 ……5
第３図　刈萱城跡位置図(1/10,000)……9
第４図　５次調査区設定図(1/1,200) ……9
第５図　５次調査区土層図(1/60)……10
第６図　５次調査区出土遺物(2/3) ……10
第７図　田口高野遺跡位置図(1/10,000) ……11
第８図　４次調査区設定図(1/5,000) ……11
第９図　４次調査区土層図(1/40)……11
第10図　４次調査区出土遺物(2/3) ……12
第11図　大堤遺跡位置図(1/10,000) ……12
第12図　調査区設定図(1/1,000) ……12
第13図　調査区土層図(1/40)……13
第14図　調査区土層・遺構配置図①(1/40)……13
第15図　調査区近世埋甕実測図(1/15)……14
第16図　調査区土層・遺構配置図②(1/40)……14
第17図　調査区出土遺物①(2/3) ……15
第18図　調査区出土遺物②(1/3) ……15
第19図　長蔵坊遺跡位置図(1/10,000) ……16
第20図　調査区設定図(1/500) ……16
第21図　調査区土層図(1/40)……17
第22図　調査区出土遺物(2/3) ……17
第23図　栢ノ木遺跡位置図(1/10,000) ……17
第24図　19次調査区設定図(1/1,500)……18
第25図　19次調査区土層・遺構配置図①(1/40) …19
第26図　19次調査区土層・遺構配置図②(1/40) …20
第27図　19次調査区土層・遺構配置図③(1/40) …21
第28図　19次調査区土層図(1/40) ……21
第29図　19次調査区人骨出土状況図(1/10) …21
第30図　19次調査区出土遺物①(2/3) ……22
第31図　19次調査区出土遺物②(1/3) ……22
第32図　19次調査区出土遺物③(1/3) ……22
第33図　久保園遺跡位置図(1/10,000) ……23
第34図　２次調査区設定図(1/400) ……23
第35図　２次調査区土層・遺構配置図(1/40) …24
第36図　２次調査区土層図(1/40)……25
第37図　２次調査区出土遺物①(2/3) ……25
第38図　２次調査区出土遺物②(1/3) ……25
第39図　３次調査区設定図(1/400) ……27
第40図　３次調査区土層図(1/40)……28
第41図　３次調査区遺構配置図(1/120) …29
第42図　３次調査区１号甕棺墓実測図(1/15) …30
第43図　３次調査区２号甕棺墓実測図(1/15) …30
第44図　３次調査区３号甕棺墓実測図(1/15) …31
第45図　３次調査区出土遺物①(2/3) ……32
第46図　３次調査区出土遺物②(1/3) ……32
第47図　寺ノ尾Ｃ遺跡位置図(1/10,000) …33
第48図　５次調査区設定図(1/1,500) ……33
第49図　５次調査区土層図(1/40)……34
第50図　５次調査区出土遺物(2/3) ……34
第51図　栢ノ木遺跡位置図(1/10,000) …35
第52図　20次調査区設定図(1/1,500)……35
第53図　20次調査区土層・遺構図①(1/40) …37
第54図　20次調査区土層・遺構図②(1/40) …38
第55図　20次調査区土層・遺構図③(1/40) …39
第56図　20次調査区出土遺物①(2/3) ……40
第57図　20次調査区出土遺物②(1/3) ……40

表　目　次

表１　平成16年度から平成17年度発掘届及び調査一覧表 ……3

図　版　目　次

図版１　刈萱城跡５次Ｔ２北土層 ……44
図版２　田口高野遺跡４次Ｔ３東土層 ……44
図版３　大堤遺跡Ｔ６近世埋甕検出状況 ……44
図版４　大堤遺跡Ｔ６近世埋甕検出状況 ……44
図版５　大堤遺跡Ｔ７土壙検出状況 ……44
図版６　長蔵坊遺跡Ｔ４北土層 ……44
図版７　栢ノ木遺跡19次Ｔ３東土層 ……44
図版８　栢ノ木遺跡19次Ｔ２遺構検出状況 ……44
図版９　栢ノ木遺跡19次Ｔ６遺構検出状況 ……45
図版10　栢ノ木遺跡19次Ｔ９遺構検出状況 ……45
図版11　栢ノ木遺跡19次Ｔ３人骨検出状況 ……45
図版12　久保園遺跡２次Ｔ３東土層 ……45
図版13　久保園遺跡３次Ｂ４東土層 ……45
図版14　久保園遺跡３次遺構検出状況 ……45
図版15　久保園遺跡３次１号甕棺墓検出状況 …45
図版16　久保園遺跡３次２号甕棺墓検出状況 …45
図版17　久保園遺跡３次２号甕棺墓検出状況 …46
図版18　久保園遺跡３次３号甕棺墓検出状況 …46
図版19　寺ノ尾Ｃ遺跡５次Ｔ９北土層 ……46
図版20　栢ノ木遺跡20次Ｔ２東土層 ……46
図版21　栢ノ木遺跡20次Ｔ６東土層 ……46
図版22　栢ノ木遺跡20次Ｔ８北土層 ……46
図版23　栢ノ木遺跡20次Ｔ２土壙検出状況 ……46
図版24　栢ノ木遺跡20次Ｔ６遺構検出状況 ……46
図版25　出土遺物① ……47
図版26　出土遺物② ……47
図版27　出土遺物③ ……48
図版28　出土遺物④ ……48

第Ⅰ章　はじめに

1．調査に至る経緯

松浦市における埋蔵文化財保護行政は、昭和50年以来、長崎県教育委員会の指導により現場立会、確認調査など積極的に対応してきている。その結果、市内における開発行為に際しては、事前に文化財保護の協議を行うことが定着してきている。ここ最近は国営農地再編整備事業・県営圃場整備事業である大型の公共事業が終了していたが、長崎県の中山間整備事業に伴う農道の改良工事、17年度からは都市下水道整備事業が開始されたことにより事業主との協議の場が増えてきている現状である。また、通常の個人による住宅建築もある。今後は西九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財の調査が対象となってくるであろう。

そんな中で、松浦市教育委員会では、平成７年度から松浦市内での各種開発事業に伴う確認調査を実施している。調査は国庫・県費補助事業として３ヵ年計画で実施し、事業の最終年度にあたる３年目に確認調査などの成果として報告書の刊行を行っている。しかし、平成18年に北松浦郡福島町・同鷹島町の一市二町による合併が控えていたため、３ヵ年計画を２ヵ年で実施することにした。本書は平成16年度・17年度にかけて実施した市内遺跡の確認調査及び本調査の報告書である。

平成16年度に実施した発掘調査は５件である。いずれも国庫・県費補助事業（以下「補助事業」という。）関係で実施している。刈萱城跡は遊歩道整備に伴う確認調査である。田口高野遺跡と大堤遺跡は県の中山間整備事業に伴う確認調査である。長蔵坊遺跡は個人の宅地建築に伴う確認調査である。それと19次調査になる栢ノ木遺跡であった。

平成17年度に実施した発掘調査は４件で、いずれも補助事業として実施した。個人住宅建築に伴う久保園遺跡の確認調査及び本調査、民間企業による駐車場整備に伴う寺ノ尾Ｃ遺跡の確認調査と範囲確認調査を行った20次になる栢ノ木遺跡の３遺跡の調査を実施している。

以上の確認調査は必要最小限の調査面積にとどめており、調査の主旨にそって遺跡の状況把握に努めているが、ほとんどの調査では良好な包含層の発見には至らず、調査終了後に工事に着手している現状である。その中でも久保園遺跡の確認調査では柱穴しか検出できなかったが、本調査では甕棺墓３基を検出することができ、住宅の建築本工事着手前に調査ができたことは大きな成果であった。久保園遺跡は、志佐川を挟んで、弥生前期後半の甕棺墓が検出された栢ノ木遺跡の対岸に位置しており、今後周辺部分での確認調査が必要であることはいうまでもない。18年度から範囲確認調査を予定している。

2．調査関係者　（敬称略）

旧松浦市教育委員会事務局　（平成17年12月31日まで）

教育長	宮　本　勝　行	
教育次長	末　竹　信　彦	
生涯学習課長	黒　木　一　博	（平成16年４月から平成17年３月まで）
生涯学習課長	益　田　　一	（平成17年４月から平成17年12月まで）
同課生涯学習推進係長	中　田　敦　之	

松浦市教育委員会事務局　（平成18年１月１日から）

教育長	宮　本　勝　行
教育次長	末　竹　信　彦
生涯学習課長	神　田　　稔
生涯学習課課長補佐	中　田　敦　之
兼文化財係長兼学芸員	
兼社会教育主事	
文化財係主任兼学芸員	山　下　寿　子
同　副主任兼学芸員	松　尾　昭　子
同　主事補	木　村　大　輔

調査担当	中　田　敦　之
整理担当	中　田　敦　之・木　村　大　輔
整理補助	土　橋　　薫・前　田　る　み・宮　崎　朝　美
調査参加者	田中　稔・里森知恵子・冨野トシエ・松永セツエ・天久保正子・黒田ヒサエ・吉田末千子・松永ヒデミ・中島カズ子・松永チエ子・崎田政子・末永民子・森　淑子・渡口米子・渡口洋子・田中節子・辻　礼子・氏山文枝
調査協力者	山口盛義・山口　武・白石光博・西田　武・小林敏治・福田正木・森　　亮・岩崎キヨ・川畑イワ・松永美代子・松永　博・小村博員・高谷壽満男・松永和之・小澤源太郎 白浜地区 グッドハウス株式会社 長崎大学医学部解剖学第二教室 長崎県県北振興局 松浦市建設課・下水道課・農業委員会事務局
整理協力者	松尾昭子・吉野貴子

表１　平成16年度から平成17年度発掘届及び調査一覧表

番号	遺跡名	届出地	事業内容	調査方法
1	田口高野遺跡	御厨町西木場免寺山236-1	資材置場	
2	田口高野遺跡	御厨町西木場免蛭田213-1他	農道整備	確認調査
3	大堤遺跡	志佐町白浜免1253他	農道整備	確認調査
4	刈萱城跡	星鹿町岳崎免2283-1他	遊歩道整備	確認調査
5	池田遺跡	御厨町里免下長峯232-1	個人住宅	立会調査
6	長蔵坊遺跡	御厨町池田免長蔵坊213・215	資材置場	
7	長蔵坊遺跡	御厨町池田免西原265	個人住宅	確認調査
8	栢ノ木遺跡	志佐町栢木免2769他	範囲確認	確認調査
9	刈萱城跡	星鹿町岳崎免2283-1	流末水処理施設	
10	大石Ａ遺跡	星鹿町岳崎免1315-1他	事務所建築	
11	久保園遺跡	志佐町高野免115-2、116-2	個人住宅	確認調査
12	久保園遺跡	志佐町高野免115-2、116-2	個人住宅	本調査
13	寺ノ尾Ｃ遺跡	御厨町上登木免大野谷476他	駐車場整備	
14	栢ノ木遺跡	志佐町栢木免2769他	範囲確認	確認調査
15	久保園遺跡	志佐町高野免55番地先	下水道工事	
16	宮ノ下リ遺跡	志佐町高野免1104	下水道工事	立会調査
17	久保園遺跡	志佐町里免久保園	下水道工事	
18	陣ノ内城跡	志佐町里免陣ノ内	下水道工事	
19	淀姫神社古墳	志佐町浦免宮前	下水道工事	

● 調査を行った遺跡

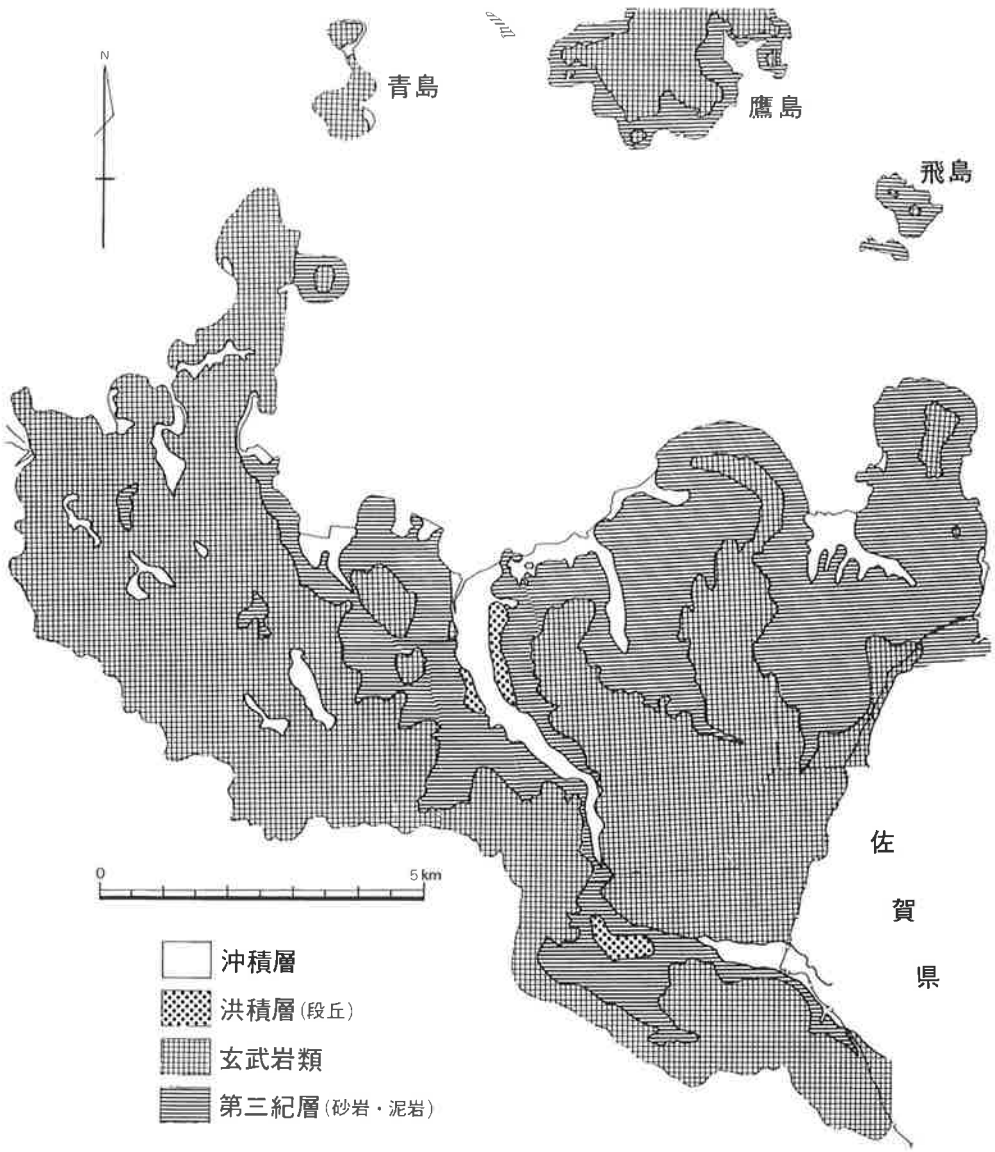
● 発掘届等があった遺跡

第１図　松浦市内遺跡分布図(1/100,000)

第II章　地理的・歴史的環境

1．地理的環境（第２図）

平成18年１月１日に旧松浦市・北松浦郡福島町・同鷹島町の一市二町が合併して誕生した松浦市は、長崎県本土の北端に位置しており、北松浦半島の北端部とその沖に浮かぶ福島・鷹島・黒島・青島・飛島などのいくつかの島々から構成されている。松浦市内で、北側には伊万里湾と元寇の島で有名な鷹島が位置しており、鷹島海底遺跡からは炸裂玉のてつはう、木製イカリが碇石を装備した状況で確認されるなど水中考古学の最先端基地となっている。西には平成17年10月１日に近隣一市二町一村が合併して誕生した平戸市が位置しており、同田平町には西の登呂遺跡といわれ多くの木製品が出土した里田原遺跡がある。この遺跡からは弥生中期初頭の甕棺墓から県内では珍しい多紐細文鏡が副葬されている。南には縄文草創期の隆起線文土器が出土した福井洞窟があり、平成17年４月１日に



第２図　松浦市地質図

合併して佐世保市吉井町となっている。近年、福井洞窟の第15層から出土した遺物の再評価も行われており、佐世保市教育委員会では確認調査を計画しているようである。東は佐賀県伊万里市及び唐津市肥前町と接しており、特に伊万里は有田焼の積出港で有名である。このように松浦市周辺の行政区においては、日本の歴史上においても重要な地域であり、中国大陸・朝鮮半島とも近いという地理条件からも特に旧石器時代から現代においても交易の拠点として栄えてきた地域である。

松浦市の地質は、第三紀層を基盤として、その上に玄武岩が広く堆積している地質構造を呈している。第三紀層は砂岩や泥岩の互層の堆積岩からなっており、かつての北松炭田はこの夾炭層を利用していました。そして、上位の玄武岩と作用して北松型地滑りを発生させる要因でもあります。この玄武岩は、北松浦半島を中心に西北九州に広く分布する松浦玄武岩と称されるもので、典型的な溶岩台地を形成している。かつては、伊万里市南方を中心として噴出した火山であったと思われている。したがって、佐賀県境を占拠する標高777ｍの国見山を主峰とし、北および西に高度を減じている。この台地が形成されたのは800万年以前の新第三紀の火山活動で、粘性の低い溶岩が盾状に広がった結果によるものである。第三紀層と玄武岩との間には、八ノ久保砂礫層がはさまれており、豊富な湧水を含んでもいる。

松浦市の地勢は、島嶼部を除くと南高北低をなし、市内を流れる河川もすべて北流している。市の南側には400ｍから500ｍ級の高位台地があり、悪太郎川以西では100ｍ以下の低位台地が広がっている。市北西部の星鹿半島の先端の津崎鼻や西田地区の波津崎には、長い年月の風化作用より海岸線を急峻に切り立たせた玄武岩の柱状節理の海食崖が発達している。この玄武岩が基盤になっているが、長い年月の侵食による地形の変化が著しく、現在の山頂部や山裾に溶岩流の一端を見ることができる。この玄武岩は節理の間に滞水しやすく、地滑り災害の原因にもなっているが、一面では湧水が豊富で溜池に利用されているところも多い。湧水のあるところは、古くより人と動物の暮らしに大きく係ってきており、遺跡の分布が認められる。

２．歴史的環境

松浦市では、人類の出現を物語る痕跡は早くから認められ、後期旧石器時代の遺物散布地は約40箇所にも及んでいる。その遺物もナイフ形石器・三稜尖頭器・剥片尖頭器・彫器・掻器・削器など多種多様で、西北九州特有の台形石器もこれに加わる。このような背景には、星鹿半島をはじめ牟田の台地に算出する黒曜石および佐賀県伊万里市腰岳の山麓に算出する黒曜石を容易に入手できる地理的要因があったためと思われる。

松浦市内の遺跡としては、圧倒的に旧石器時代・縄文時代の遺跡が多いのが特色でもある。特に市西部の伊万里湾に突出した星鹿半島の周辺は市内でも特に遺跡の多い地域として注目されている。現在までのところ、後期旧石器時代の所産であるナイフ形石器や台形石器の資料が牟田Ａ・Ｂ・Ｃ遺跡、中ノ崎・長蔵坊・田口高野・田川・楼楷田・宮ノ下リ遺跡などで確認されている。鷹島町でも開田遺跡からナイフ形石器・台形石器が採集されている。同町長畑遺跡からもナイフ形石器・尖頭器と細石

核・細石刃が採集されている。平成２年度の竜尾川地区県営圃場整備事業に伴う寺ノ尾Ｃ遺跡の確認調査ではナイフ形石器・台形石器の良好な包含層が検出されている。このように星鹿半島一帯は、原始生活に必要な道具生産の主たる石材である黒曜石の原産地である。これまで多くの原石が採集されているが確認調査では良好な包含層の発見までには至っていない。平成12年度に実施した国営農地再編整備事業に伴う田口高野遺跡の発掘調査では姶良Ｔｎ火山灰と鬼界アカホヤ火山灰の降灰層準が確認されている。台形石器を主体とする石器群と姶良Ｔｎ火山灰の関連で重要な遺跡として周知されている。

縄文時代では、旧石器時代から引き続き営まれた遺跡が多く鷹島海底遺跡・姫神社遺跡・小嶋遺跡・下谷遺跡など良好な遺跡も知られている。平成４年に実施した鷹島町床浪港の護岸工事に伴う鷹島海底遺跡の調査では標高－25m前後の調査地点から摩滅痕が認められない縄文早期の押型文土器が多数出土している。これは地滑り等の自然災害等の要因で遺跡が海底に沈んだのではなく海進現象に因るものと考えられており、古環境においても一石を投じた海底遺跡である。姫神社遺跡は、昭和41年にアメリカのウィスコンシン大学アルバート・モアと日本人学者（内藤芳篤、吉崎昌一ら）による合同調査が行われており、縄文前期の轟式土器、曽畑式土器を中心に、中期の阿高式土器、石器では石鏃・石錐・石槍・石斧・石匙などが報告されている。また、この姫神社遺跡からは萩原博文・久原巻二氏によって縄文後期の土器片と共に石鋸・サイドブレイドが採集されている。小嶋遺跡は、昭和61年度に簡易水道敷設工事に伴う緊急調査で発見した遺跡で、縄文前期の曽畑式土器、中期の阿高式土器を中心に春日式土器などもある。石器では黒曜石製石鏃・剥片鏃、石銛・滑石製装飾品・石斧などが出土している。平成６・７年度には竜尾川地区県営圃場整備事業に伴い実施した田川遺跡の本調査では、縄文中期終末から後期初頭頃の坂の下式系土器とともに多数の剥片鏃・つまみ形石器・石錐・石鋸・サイドブレイドなどが出土している。平成12年度の国営農地再編整備事業に伴う下谷遺跡の本調査ではドングリ貯蔵穴19基を検出している。貯蔵穴にはイチイガシなどの堅果類が多く外皮完存のままで出土しており、湧水を利用した貯蔵穴群である。土器では後期の坂の下式土器を主体とする一群、北久根山式土器を主体とする一群、三万田式土器を主体とする一群があることから縄文時代後期前葉から後葉に営まれた遺跡と思われる。平成８年度に実施した国営農地再編整備事業に伴う今福遺跡の本調査では、晩期の深鉢で口縁部にリボン状の突起を伴う黒川式土器が出土している。また、松浦市では初めての網目状を呈した組織痕土器も出土している。

弥生時代では、大正14年に発見され、現在は長崎県の重要遺跡として周知されている池田遺跡がある。この遺跡は、昭和63年から平成元年度にかけて４次にわたる確認調査が行われている。その結果、縄文晩期から弥生前期にかけての良好な包含層及び貝塚が検出されており、柱穴・箱式石棺墓・甕棺墓・土壙などの遺構と西平式土器・刻目突帯文土器・板付Ⅱ式土器・骨製ヤス・貝輪などの遺物が出土している。その他では、昭和45年秋に水田畦畔工事に際して甕棺墓２基が発見された志佐町の栢ノ木遺跡がある。昭和46年３月の本調査の結果、石棺墓３基と新たに甕棺墓１基が検出されている。甕は成人用で器形から前期後半の年代が与えられる資料である。２号石棺墓内の枕石上には中国後漢時

代の青銅製の内行花文鏡片が副葬されており、首長層の誕生が考えられている。平成15年度の第17次調査でも甕棺墓２基・石棺墓３基が検出されている。

古墳時代では、昭和62年度に確認調査を実施した小嶋古墳群がある。３基を確認し、そのうちの１号墳を調査した。天井部を欠いた石室が露出しており、方形の玄室プランに羨道を付した横穴式石室であった。玄室内より銀環・碧玉製勾玉・ガラス製丸玉などが多数出土しており、盛土は流失して失われているが直径約10m程度の円墳であったと思われる。７世紀代に比定できる資料である。鷹島町には６世紀後半に編年される宝ケ峯古墳群３基と７世紀前半の鬼塚古墳が所在している。いずれの被葬者も海上交易に関係したと思われる首長的な立場の人物であっただろうと思われる。前記の栢ノ木遺跡の対岸には昭和60年度から志佐川地区県営圃場整備事業に伴って確認及び本調査を実施した宮ノ下リ遺跡がある。箱式石棺墓１基・竪穴式住居跡２棟・溝状遺構が検出されている。竪穴住居跡は４世紀後半から５世紀代の遺構である。遺物では４世紀中頃の布留式古段階の土師器甕から５世紀代にかけての甕・坏・高坏などが出土している。この頃には畿内からの影響を知ることができる。

古墳時代以降では、「宇野御厨」の痕跡であろう。宇野御厨荘、単に御厨荘ともいわれている。律令制下では天皇や神に貢納する魚貝・果物を贄と称しており、のちに宇野御厨が置かれた松浦・五島の地域でも、大宰府を通じて贄が貢上されていたことが『延喜式』や贄木簡などによって知られる。宇野御厨が初めて文書に現われるのは『東南院文書』で、寛治３年（1089）８月17日の筑前国観世音寺三綱解案に「宇野御厨別当下文」とあるものである。つぎに宇野御厨の名が見えるのは、『石志文書』の、康和４年（1101）８月29日の肥前国宇野御厨検校源久譲状案である。この文書は偽文書の疑いが指摘されている史料でもある。この史料には「宇野御厨野検校散位」（源久）という松浦党の祖といわれている人物の名が見える。この源久は延久元年（1069）現在の松浦市今福町に下向し、土着したといわれている人物で、以後の松浦党の諸氏は源久を祖として仰いでいる。松浦党は宇野御厨および御厨荘一帯に土着した源性一字名の集団を中心に、当初はその姻族が加わった武士団であったと思われ、西北九州で絶大なる影響力を持つようになる。松浦党は、玄界灘を熟知した航海術で盛んに公益活動を行い、大陸まででかけていって交易するようになっている。この松浦党の時代の文永11年（1274）と弘安４年（1281）の二度に元軍が襲来している。特に弘安４年の時には伊万里湾一帯が元軍の殲滅した所として知られており、昭和55年から57年度の文部省科学研究費による調査、また、58年度の床浪港改修工事に伴う緊急調査が行われている。床浪港に関してはこのほかに昭和63年度・平成元年度・４年度にも改修工事に伴う緊急調査が行われている。さらに、平成６年度・７年度・12年度・13年度にはいずれも神崎港改修工事に伴う緊急発掘調査が行われている。これまでの学術調査と緊急調査によって元寇に関係する遺物が数多く出土している。平成６年度の神崎港の緊急調査では、２個の碇石が対になった木製碇が海底面より１m下がったシルト層で元の位置を保った状態で検出されている。平成13年度の緊急調査では船のマストを支える台座や外板が検出されている。これらの緊急調査と同じくして発掘を伴わない目視による海底遺跡詳細分布調査を平成４年度から平成11年度まで行っている。その後、平成12年度から17年度まで国庫補助事業として確認調査を実施している。

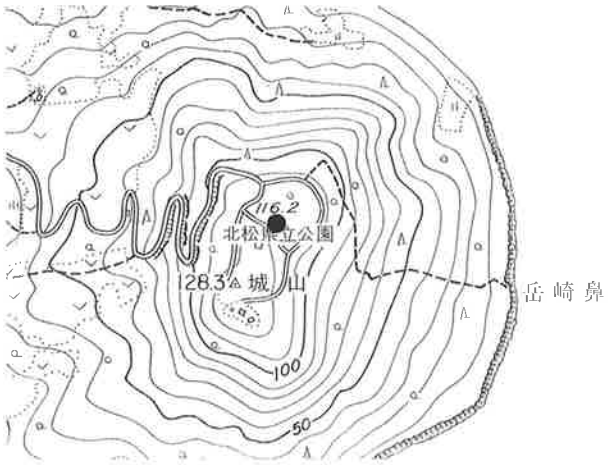
第Ⅲ章　平成16年度確認調査の概要

平成16年度に国庫補助を受けて実施した５遺跡について、その調査を以下に概説する。なお、調査時における記録処置については、実測図は1/10・1/20を基本とし、写真撮影も同時に行っている。

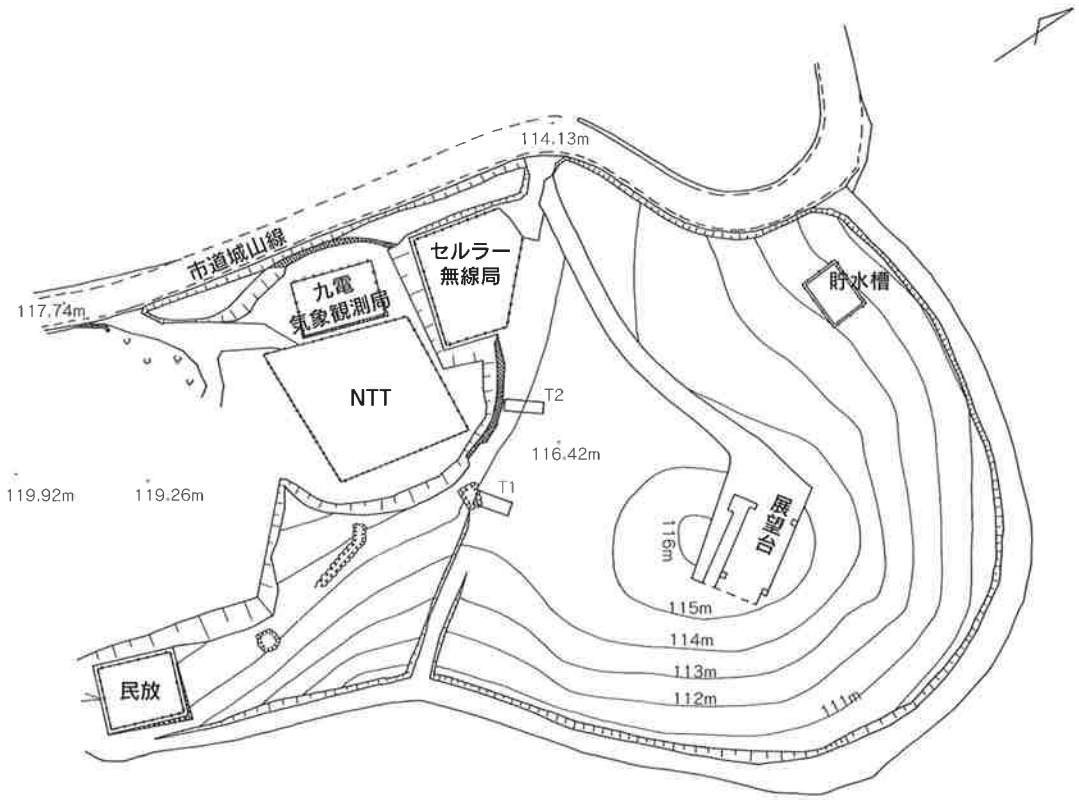
１．刈萱城跡（第３図～第６図）

立地　刈萱城跡は、市の西部星鹿町岳崎免、伊万里湾に面して北に向かって突出した南北に約４kmの星鹿半島の先端部東側標高125.6ｍの山頂部の通称城山に位置している。この城山はトロイデ式火山で山頂部には玄武岩が堆積している。城山の南側には北西の季節風を避けることのできる天然の良港である星鹿港が立地している。

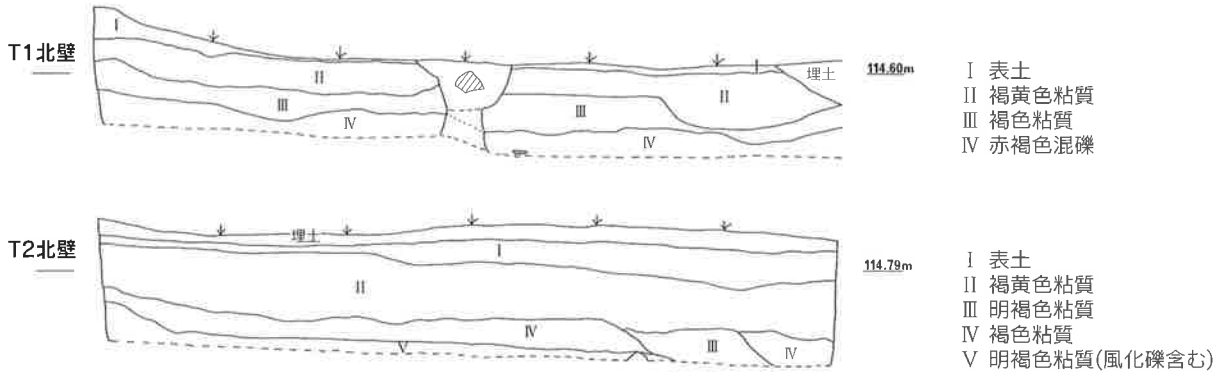
刈萱城跡が所在する星鹿城山及び星鹿半島一帯には、旧石器時代から大量に消費されて



第３図　刈萱城跡位置図(1/10,000)

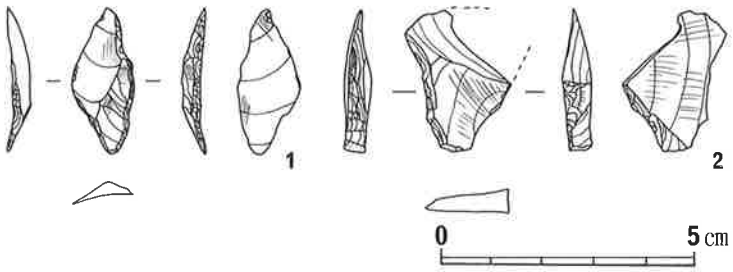


第４図　５次調査区設定図(1/1,200)



第５図　５次調査区土層図(1/60)

いる黒曜石の産地があり、かつてはいたる所で原石が採集できたが、近年はほとんど見ることができなくなった。



第６図　５次調査区出土遺物(2/3)

調査　刈萱城跡の調査は、これまで平成元年度に民放のテレビ中継所建設、平成３年度にＮＴＴの無線中継所、平成６年度に九州セルラーの無線基地局建設、平成11年度に展望台建設に伴って調査を行っているがいずれの調査でも中世の山城に関する遺構・遺物の出土は確認できていない。今回の調査は、第５次調査にあたり城山全体を徒歩で回れるように遊歩道の整備（全長719m）に伴う調査で、７月26日から８月３日まで行った。調査地点は城山の中央部に東西に走る形で幅約５ｍ・長さ約80ｍの小道が通る空堀と思われる部分に調査区を設定した。調査区は２ｍ×６ｍを２ヵ所設定した。最終的に調査した面積は24㎡である。

検出遺構　空堀と想定した地点には遺構を検出することはできなかった。土層の堆積状況も自然堆積であった。遊歩道の周辺においても城跡に関する遺構・遺物を検出することはできなかった。

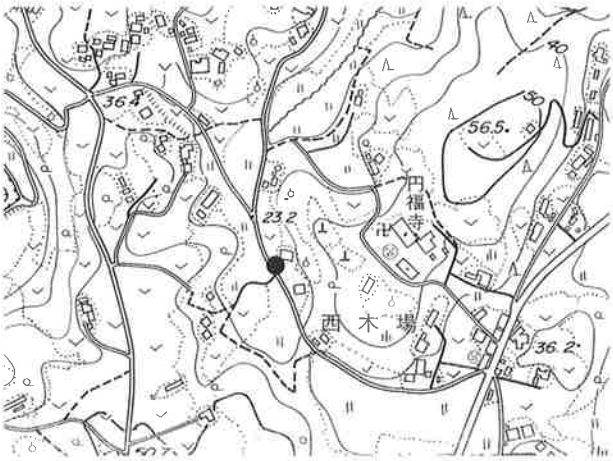
出土遺物　今回の第５次調査では29点の遺物が出土している。遺物にはナイフ形石器・台形石器・旧石器の所産と思われる黒曜石製剥片・砕片、安山岩製剥片がある。このうち実測できる２点を図示した。１は小形のナイフ形石器で良質の黒曜石の縦長剥片を素材としている。両側縁とも入念なブランティング加工が施されている。ブランティング加工は主要剥離面から行われており、刃部には一部使用によると思われる刃こぼれが認められる。重さは0.9ｇで、Ｔ２Ⅱ層出土である。２は幅広剥片を素材とし、側縁加工が主要剥離面からと背面の両面から施されている台形石器である。全面パティナに覆われている。刃部を欠損しており、基部には自然面を有している。重さ2.5ｇで、Ｔ２Ⅱ層出土である。

2．田口高野遺跡（第７図～第10図）

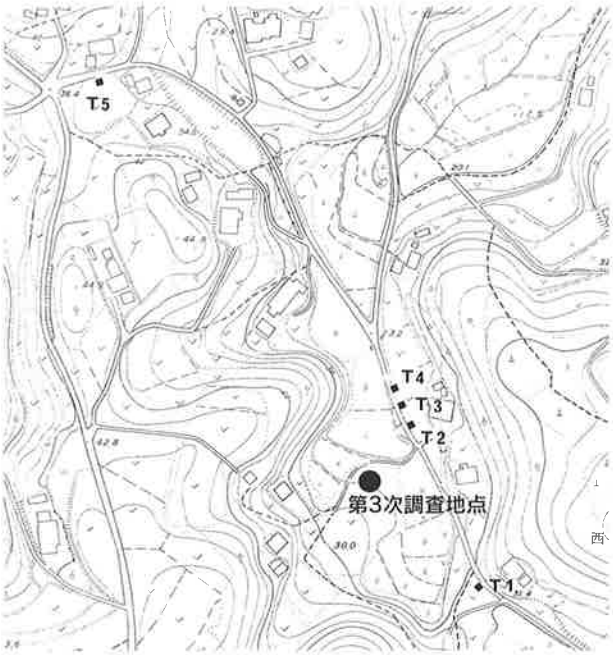
立地　田口高野遺跡は、松浦市の西部平戸市に近い御厨町西木場免に所在し、国道204号線と接する市道西木場線の沿線に沿った標高約25ｍから約35ｍの丘陵上に広く分布している。遺跡の北側約１㎞の地点にはナイフ形石器等が採集されている波津崎遺跡が位置している。遺跡の南側には平戸市田平町との境をなす坂瀬川が流れている。また、北東へ約800ｍの海岸部には縄文後期のドングリ貯蔵穴を検出した下谷遺跡が立地している。

調査　田口高野遺跡の調査は、平成８年度に標高約28ｍから約30ｍの丘陵上で国営農地再編整備事業に伴う確認調査を行っており、旧石器の良好な遺物包含層が確認されたため、平成11年度と12年度に記録保存のための本調査を実施している。この調査では姶良Ｔｎ火山灰と鬼界アカホヤ火山灰降灰層準が確認されている。平成15年度には前回の調査地点より北西に約100ｍの地点で個人の住宅建築に伴う確認調査を行っている。今回の田口高野遺跡の調査は第４次調査となる。調査は県の中山間地域総合整備事業北松３期地区西木場農道の拡幅工事に伴う確認調査である。工事は国道204号線と接する地点から新波止線につながる全長760ｍの中で、調査区が設定できる地点を選んで２ｍ×２ｍの調査区を５箇所設定した。調査は刈萱城跡の調査終了後の平成16年８月５日から８月11日まで実施した。調査した面積は20㎡である。

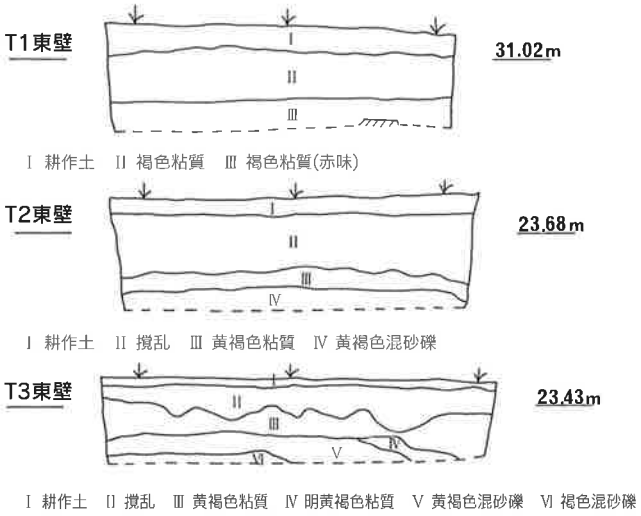
検出遺構　今回の調査は畑として利用されている地点を選んで設定したが、いずれの調査区とも撹乱を受けており、遺



第７図　田口高野遺跡位置図(1/10,000)



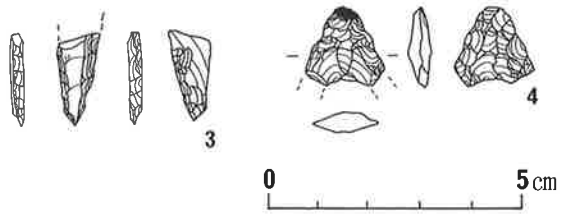
第８図　４次調査区設定図(1/5,000)



第９図　４次調査区土層図(1/40)

構を検出することはできなかった。

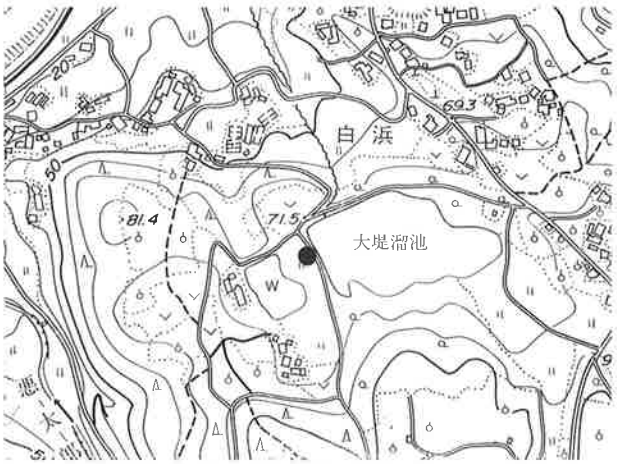
出土遺物　今回の第４次調査では30点の遺物が出土している。しかし、ほとんどが撹乱層からの出土であった。遺物にはナイフ形石器１点・黒曜石製石鏃１点も含まれる。この他の遺物では黒曜石製原石・剥片・砕片、近代の陶磁器が出土している。３は基部のみの資料であるが小形のナイフ形石器であろう。ブランティング加工は主要剥離面より丁寧に施されている。重さは1.5ｇで、Ｔ１Ⅱ層出土である。４は基部と先端部を欠損している石鏃である。調整加工は粗い。重さは0.8ｇで、Ｔ２撹乱層からの出土である。



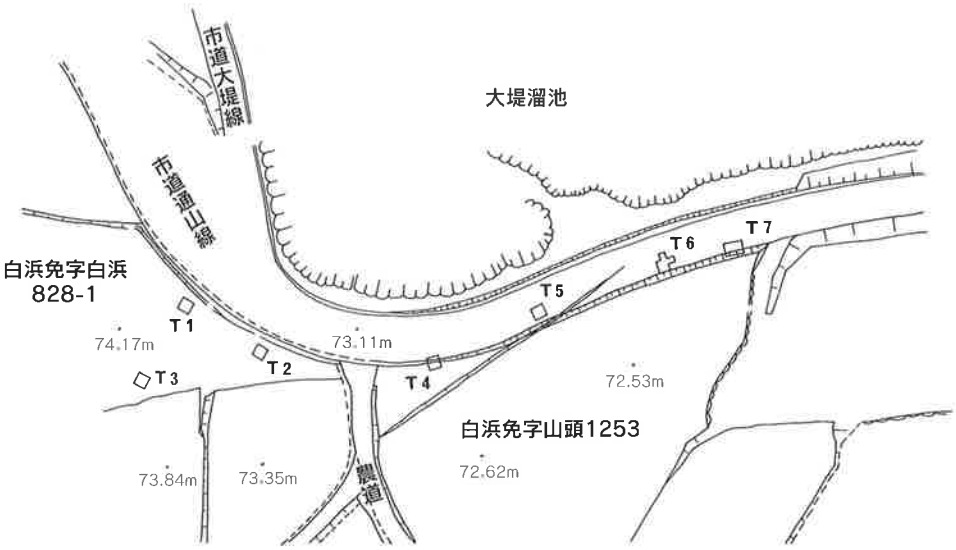
第10図　４次調査区出土遺物(2/3)

３．大堤遺跡（第11図～第18図）

立地　大堤遺跡は、松浦市の中心部より西へ約２㎞の地点志佐町白浜免の大堤溜池の周辺にあり、標高約73ｍの丘陵上の畑地に分布している。遺跡の北側約700ｍの地点には、昭和57年度から59年度に長崎県と松浦市との共同による松浦火力発電所建設に伴う本調査を実施した楼楷田遺跡が位置している。遺跡は中世の集落跡で大量の輸入陶磁器とともに海岸へ向かって延びた長さ130ｍの石敷道路状遺構・土壙・たたら状遺構・掘立柱遺構群が検出されている。遺物ではナイフ形石器・台形石器・剥片尖頭器・角錐状石器・細石核、縄文では大量の黒曜石製鍬形鏃・剥片鏃・尖頭状石器・磨製石斧・打製石斧・十字形石器・磨石・石皿・砥石・玉類、早期から晩期までの縄文土器、弥生土器・抉入片刃石斧、中世の土器に先行する土師質土器、中世の遺物では、滑石製石鍋・石錘・土錘・バレン状滑



第11図　大堤遺跡位置図(1/10,000)



第12図　調査区設定図(1/1,000)

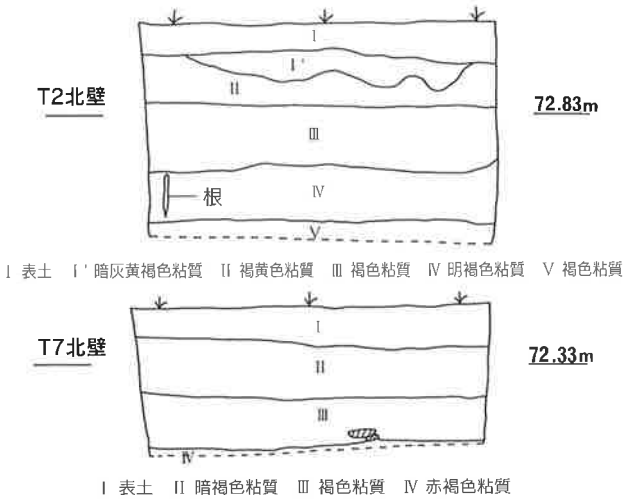
石製品・鞴の羽口・スラッグ・鉄片・内黒土器・土師器・瓦器・瓦質土器・東播系須恵質土器、輸入陶磁器では白磁碗・皿、龍泉窯系青磁碗・皿、同安窯系青磁碗・皿、青白磁合子・朝鮮産青磁碗・粉青沙器・天目碗・陶器類がある。その他では中国製銅銭と多岐にわたって出土している。

調査　大堤遺跡に関してはこれまで発掘調査は行われたことがなく、表採資料として黒曜石製石鏃や剥片が採集されているのみで、遺物散布地として周知されていた。今回の調査は県の中山間総合整備事業北松３期地区通山農道の拡幅工事に伴う大堤遺跡の確認調査である。工事は大堤溜池の西側に沿って南北に走る市道通山線の全長580ｍの中でも特に溜池周辺に位置する畑地に２ｍ×２ｍの調査区を設定した。調査期間中に遺構が検出された調査区においてはそれぞれ状況に応じて拡張して調査を行った。調査は平成16年10月27日から11月10日まで実施した。

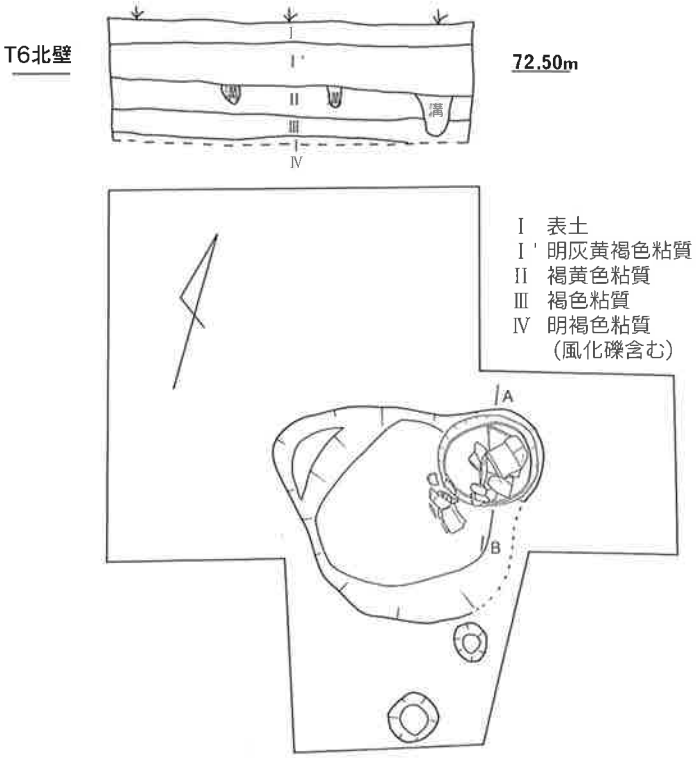
検出遺構　Ｔ６区とＴ７区で近世と思われる土壙をそれぞれ検出した。

Ｔ６区では表土下20㎝の位置で、上面が直径１ｍ、深さ0.6ｍの埋甕を検出した。埋甕の底部には大量の炭化物を敷きつめた状況が認められた。その炭化物と一緒に肥前系染付碗が出土している。甕の内面中央部分から底部の部分には黒色の付着物が一面に張り付いていた。この遺構については貯蔵関連あるいは水の浄化用遺構が考えられるが確かな確証が得られていないため、現在のところこの遺構に関しては不明である。類例の増加に期待したい。

Ｔ７区では表土下20㎝の地点で土壙を検出した。直径1.3ｍのほぼ円形の遺構で、底部は擂鉢状に



第13図　調査区土層図(1/40)

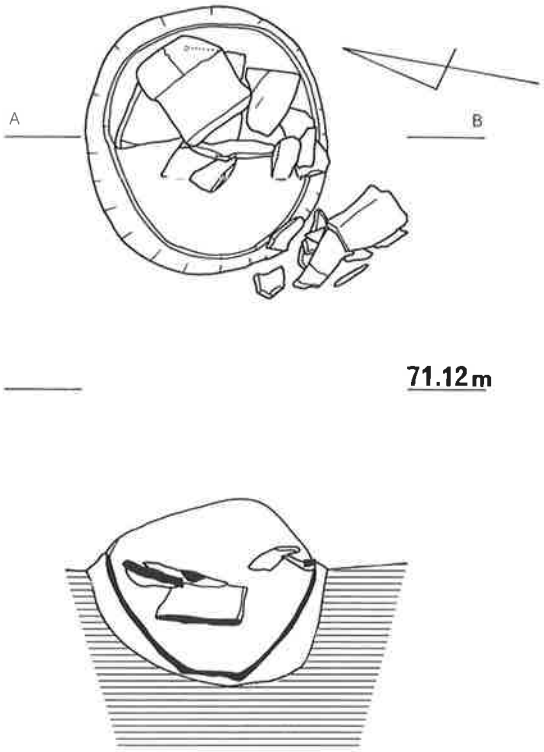


第14図　調査区土層・遺構配置図①(1/40)

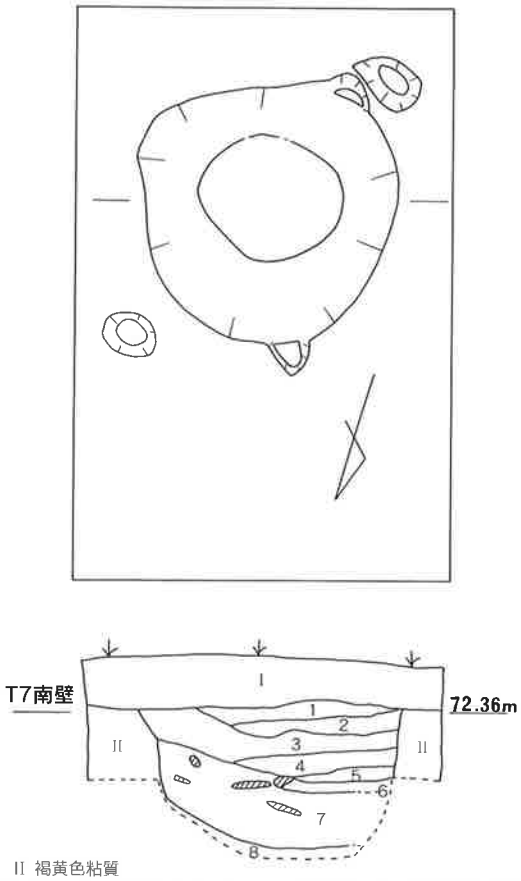
掘り込まれており立上りは急である。中段から下部にかけては自然礫を含んでおり、投げ込まれたような状況で検出されている。上面では炭化物を含んでおりしまっていない。遺構の周りにはなんらかの関係があると思われる直径20cmの柱穴を３個検出している。遺物には近世末期の陶磁器類が出土していることから廃棄処理施設ではないだろうかと考えている。類例の増加に期待したい。

出土遺物　出土遺物は合計で237点である。黒曜石製石核・剥片・砕片、安山岩製石核・剥片・砕片、土師質土器、瓦質土器、近世陶磁器が出土している。５～８は黒曜石製石鏃である。５は剥片の素材をそのまま利用し刃部に調整加工を施している。Ｔ３Ⅱ層出土。重量は1.4ｇである。６は小形で加工は丁寧である。基部を欠損している。Ｔ５埋土層出土。重量は0.3ｇである。７も５と同様の素材を使用しており、削器としての利用も考えられる。Ｔ５埋土層出土。重量は2.1ｇである。８は先端部と基部の一部を欠損している。基部の抉りも浅く二等辺三角形で加工も丁寧に行われている。Ｔ６Ⅰ層出土。

９・10・12はＴ７土壙から出土した遺物である。９は器高51.2cm・口径32.8cm・底径20.0cmを計る甕である。外面淡黄褐色を呈し胎土は粗い。10は染付碗で、見込みに二重圏線とコンニャク印判五弁花文が施されている。外面には崩れた丸文が描かれている。釉・胎土とも灰色で、器高6.3cm・口径11.2cmを計る。1820～1860年代の資料で永尾本窯跡に類例がある。11は白磁碗でやや淡い緑色の釉が施されている。口径10.4cmを計る。12は染付碗で、器壁は薄く仕上げてあり、外面に草花文が施されている。口径11.2cmを計る。

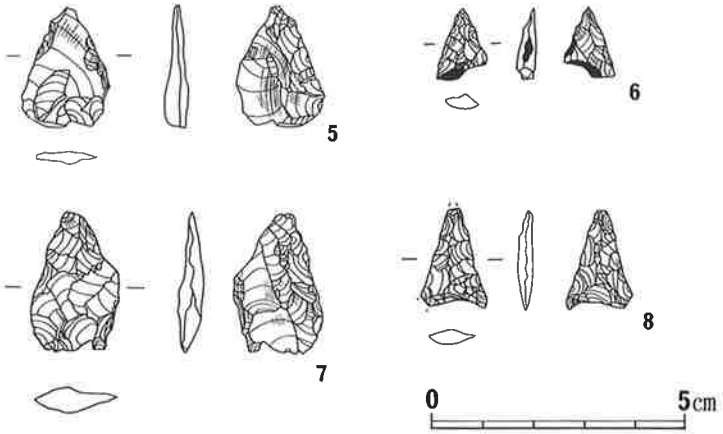


第15図　調査区近世埋甕実測図(1/15)

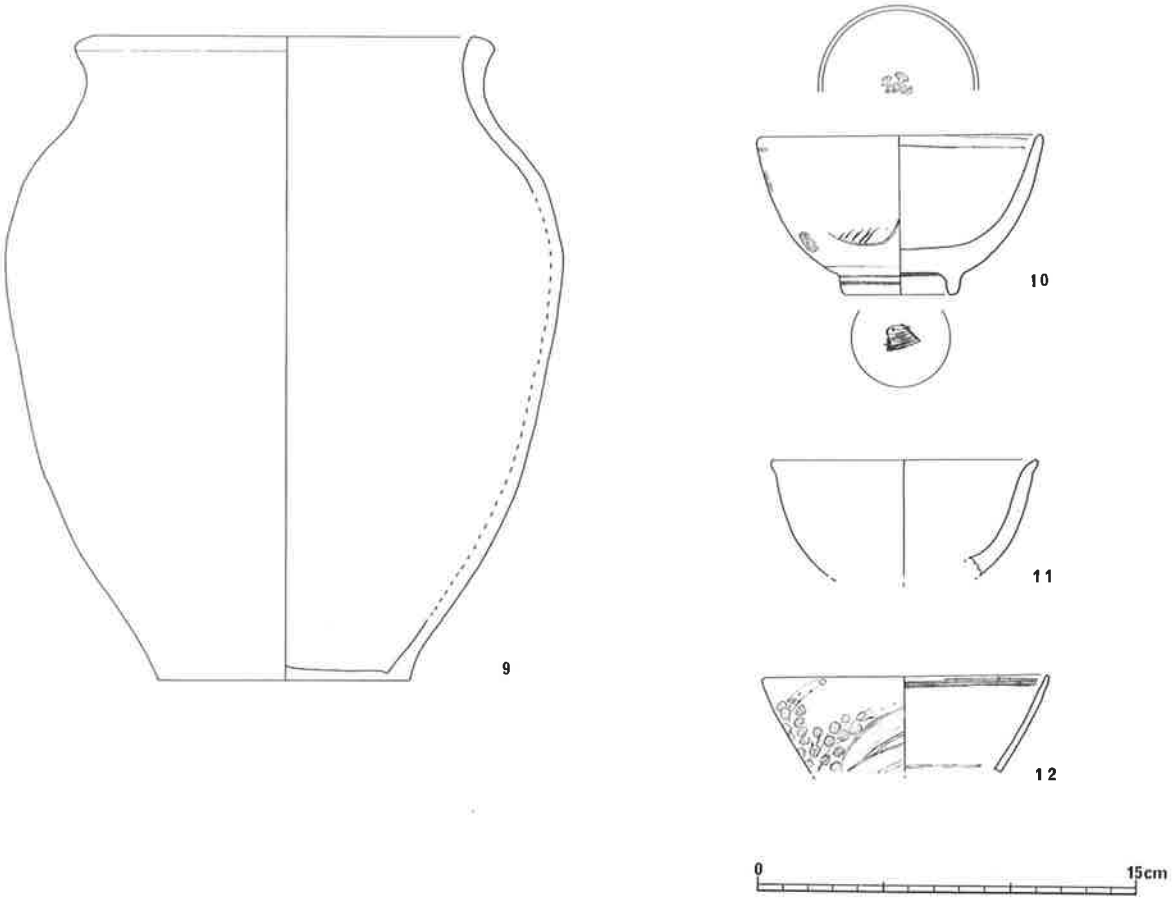


Ⅰ　表土　Ⅱ 褐黄色粘質
1　暗灰褐色粘質　2　ⅠとⅡの混在　3　ⅠとⅡの混在　4　褐黄色粘質(Ⅰが混在)
5　灰褐色粘質　6　暗褐黄色粘質　7　灰褐色粘質　8　灰褐色粘質

第16図　調査区土層・遺構配置図②(1/40)



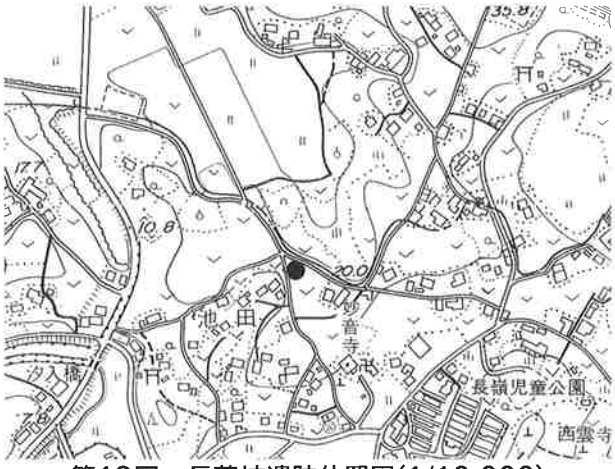
第17図　調査区出土遺物①(2/3)



第18図　調査区出土遺物②(1/3)
（9は1/6の縮尺）

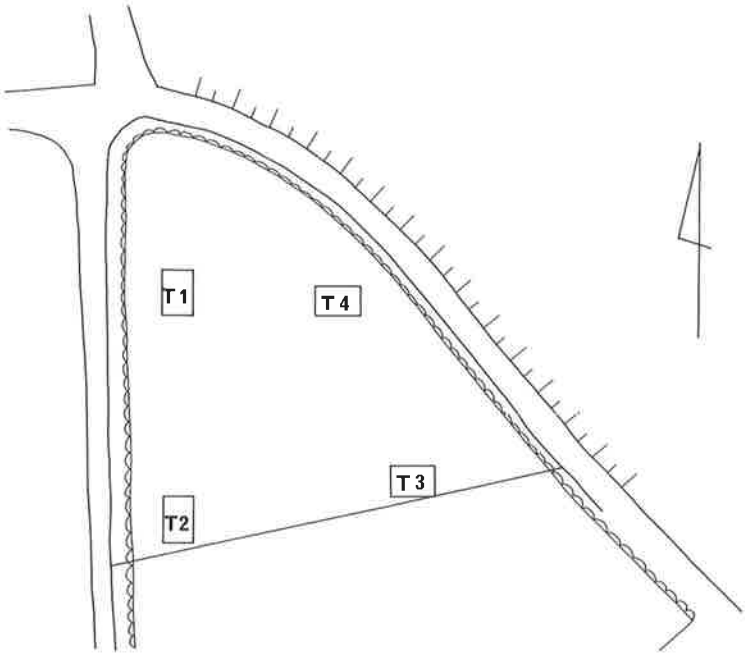
4．長蔵坊遺跡（第19図～第22図）

立地　長蔵坊遺跡は、松浦市の西部星鹿半島のつけ根部分の御厨町池田免に位置している。標高が約30ｍの丘陵上の畑地に分布している。遺跡の東側には市内でも重要な縄文から弥生期の貝塚が検出された池田遺跡と縄文前期の曽畑式土器を中心とした姫神社遺跡が立地している。



第19図　長蔵坊遺跡位置図(1/10,000)

調査　調査は個人の住宅建築に伴う確認調査で、558㎡の工事予定地区は牛の飼料が栽培されており収穫後に２ｍ×３ｍの調査区を４箇所設定し24㎡を調査した。調査は平成16年12月１日から12月３日にかけて実施した。４箇所の調査区とも耕作土の下はいずれも撹乱を受けており、この撹乱層から遺物が出土している。



第20図　調査区設定図(1/500)

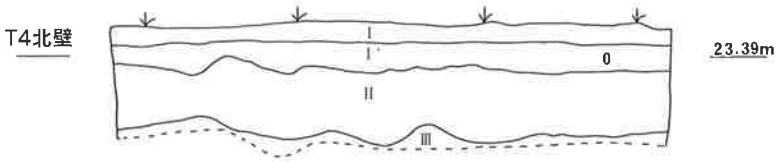
検出遺構　今回の調査では遺構を検出することはできなかった。

出土遺物　撹乱層から出土した遺物は921点で、そのほとんどが牟田産黒曜石製の出土であった。遺物では、黒曜石製台形石器・石鏃、剥片、須恵器坏片があり、調査地点の周囲でも牟田産黒曜石の原石が採集できる。13～20は黒色黒曜石製で、13は横広剥片を利用した三角形状の台形石器で、刃部に最大幅を有し刃部と基部はほぼ平行である。一部刃部を欠損しており、基部調整は主要剥離面から行われており、断面四角形を呈している。法量は長さ2.7㎝・幅2.0㎝・厚さ0.7㎝、重さ3.1ｇである。Ｔ４撹乱層出土。14は基部が尖った柳葉形の石鏃で、長さ2.4㎝・幅0.8㎝・厚さ0.4㎝、重さ0.7ｇである。Ｔ２Ｉ層出土。15は基部が直線的な石鏃で厚みが薄い剥片を利用している。重さ0.5ｇ。表採資料である。16は先端部を欠損している石鏃で基部の抉りも浅い。重さ0.6ｇである。Ｔ３撹乱層出土。17も先端部と基部を欠損している石鏃である。重さ1.1ｇ。表採資料である。18はスクレイパーである。重さ4.1ｇ。Ｔ２Ｉ層出土。

19は石錐である。剥片の先端部に錐部を作り出している。長さ3.3cm・幅1.7cm・重さ2.3gである。T2撹乱層出土。

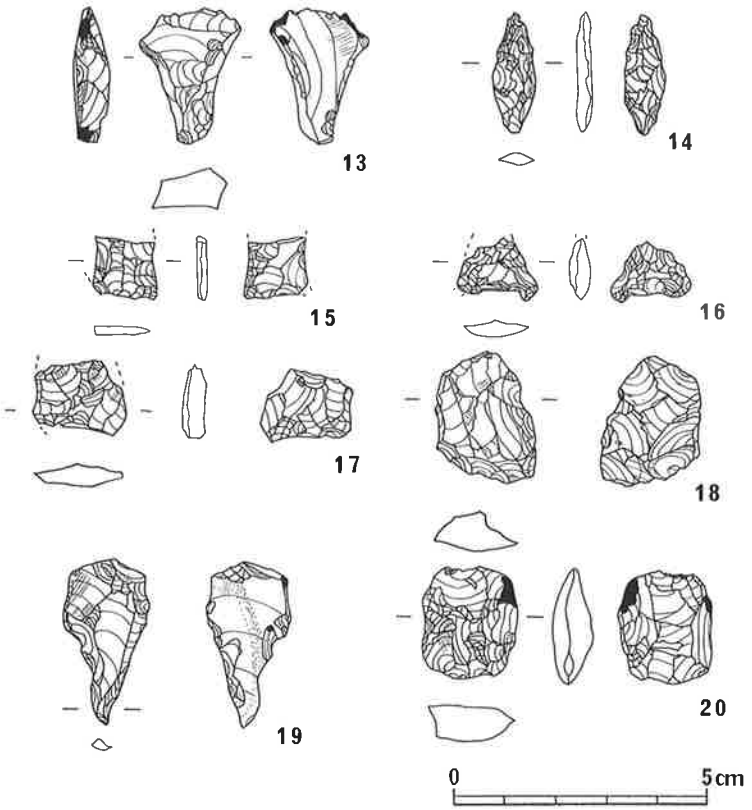
20もスクレイパーである。両面とも上下左右方向から調整剥離が行われている。長さ2.3cm・幅1.9cm・厚さ0.8cmで、重さは0.35gである。T1I層出土。

図示できなかった遺物では、黒曜石製剥片・砕片、安山岩製剥片・砕片、磨石、加工痕のある石器、滑石混入の縄文土器、土師器、須恵器、土師質土器・須恵質土器・東播系須恵質土器・龍泉窯系青磁碗・鎬蓮弁文碗・玉縁の白磁碗など多くの種類が撹乱層から出土しているため、かつては周辺も含んで縄文期の集落があったのか。また、中世の集落があったのか。今後は隣接する遺跡との関係を検討していかなければならないようである。



I 耕作土　I' 灰黄褐色粘質　II 撹乱　III 黄褐色玄武岩風化礫

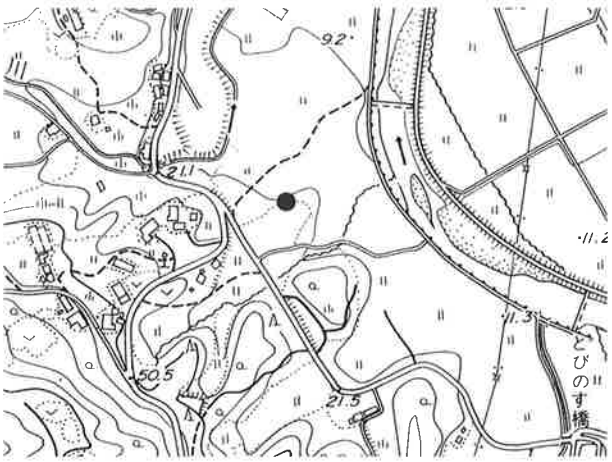
第21図　調査区土層図(1/40)



第22図　調査区出土遺物(2/3)

5．栢ノ木遺跡（第23図～第32図）

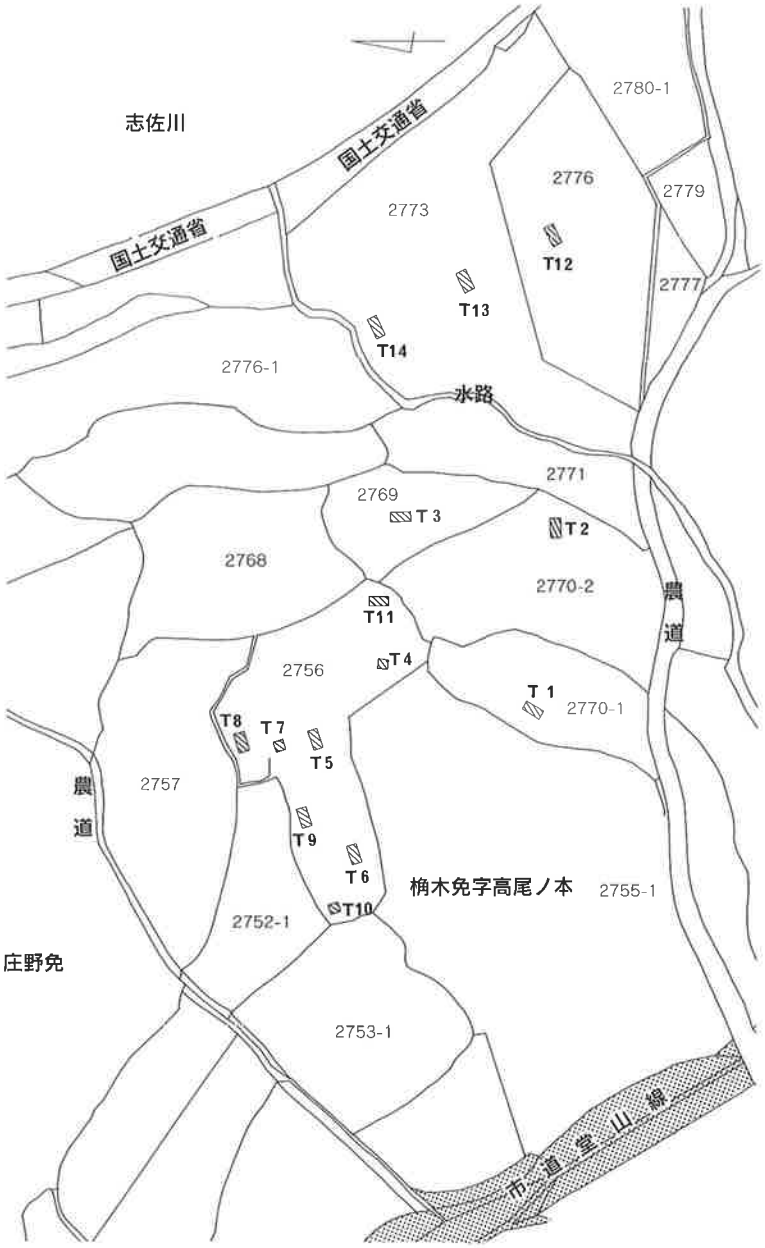
立地　栢ノ木遺跡は、市の中心部を流れる志佐川下流域の左岸の台地と志佐川の支流である佐々山川の流域の両岸に営まれた水田地帯に位置している。市内において最も恵まれた立地条件を有している。遺跡は東西約600m、南北約900mの広範囲に分布している。志佐川の対岸の沖積平野及び河岸段丘上には古墳時代の竪穴住居跡や箱式石棺墓が検出された宮ノ下リ遺跡、中世の久保園遺跡、陣ノ



第23図　栢ノ木遺跡位置図(1/10,000)

内城跡が立地している。

調査　栢ノ木遺跡に関してはこれまで19回にわたる調査が行われている。これらの調査結果より遺跡の中心は甕棺墓・箱式石棺墓が検出された昭和46年の調査地点と考えられる。遺跡は縄文前期から中世期の複合遺跡である。しかし、遺跡の北側の水田部分は広がりが確定していないことと、昭和51年に文化庁が発行した『全国遺跡地図42　長崎県』には北側地点に深町遺跡として記載されていたが、平成７年に県教育委員会より発行された『長崎県遺跡地図』には記載されていないため、深町遺跡の有無と栢ノ木遺跡との関連性がないか確認するため、今回の調査となった。調査は第19次調査と位置付けし、平成16年12月９日から平成17年１月13日までの36日間実施した。調査区は水田部分と一部荒蕪地に２ｍ×４ｍの調査区を11箇所、２ｍ×２ｍを３箇所設定した。最終的に調査した面積は100㎡であった。

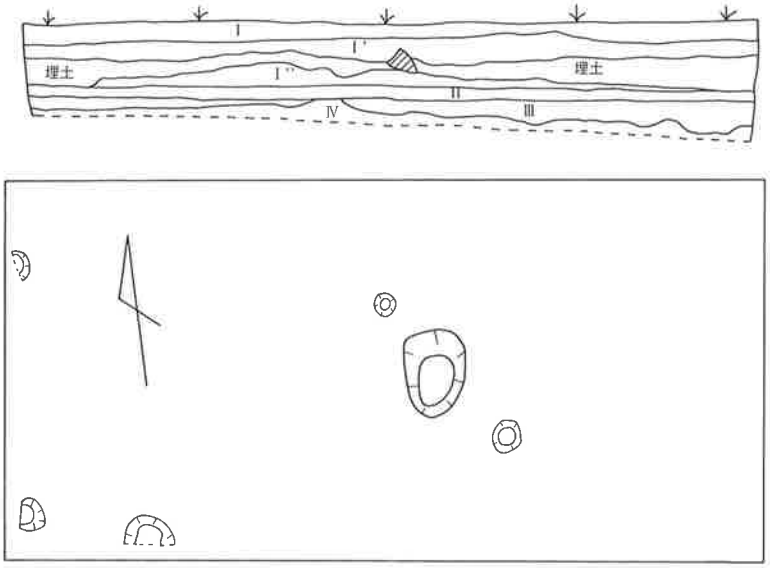


第24図　19次調査区設定図(1/1,500)

検出遺構　14箇所の調査区のうち７箇所で弥生を中心とする柱穴を検出した。調査範囲を限っていたため建物の復原までには至らなかった。その周囲には柱穴が存在していることが予想される。柱穴内からは甕形土器の弥生土器の出土が多かったが龍泉窯系青磁碗が出土している例もある。

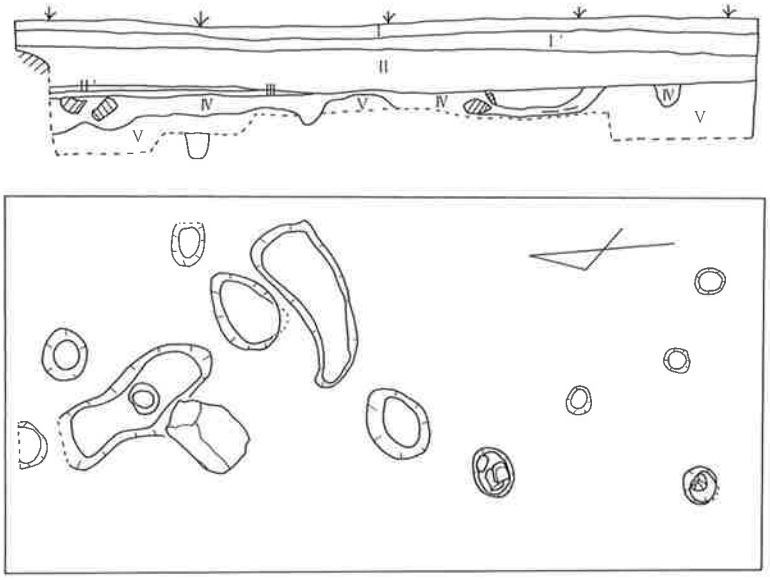
出土遺物　調査では黒曜石製石鏃・剥片、石庖丁、弥生土器片、中国産輸入陶磁器等3,071点が出土している。Ｔ３区では中世の包含層から頭蓋骨片と大臼歯・小臼歯(？)が確認された。保存状況が非常に悪いため性別・年齢は不明である。21～25は黒曜石製石鏃である。21は鍬形鏃で長さ2.0㎝・幅1.95㎝・重さ0.85ｇで、Ｔ14埋土層出土である。22は二等辺三角形を呈する石鏃で、両脚部を欠損している。Ｔ12埋土層出土。23は正三角形を呈し基部から脚部を欠損している。Ｔ２Ⅱ層出土である。24は先端部のみの資料である。Ｔ２Ⅱ層出土。25は剥片鏃である。重さは0.7ｇで、Ｔ２Ⅲ層出土である。26は小形の安山岩製の石槍と思われる。長さ4.8㎝・幅1.75㎝・厚さ0.9㎝・重さ

T2北壁



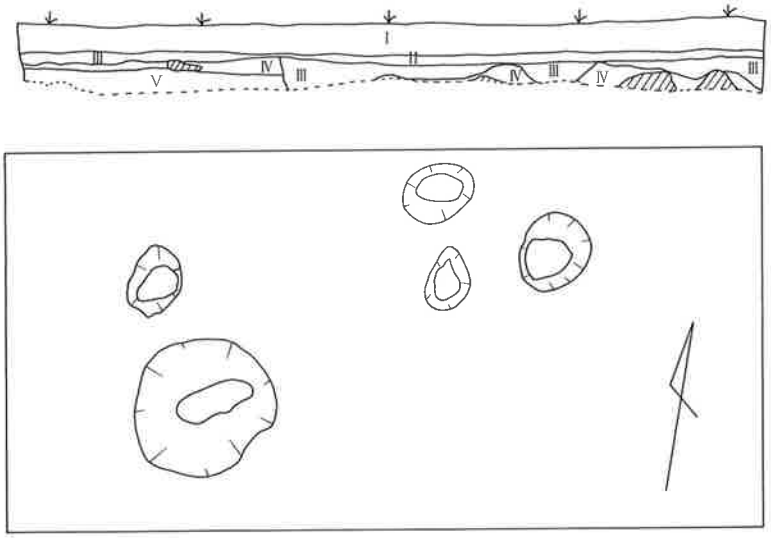
Ⅰ　耕作土
Ⅰ'　床土
Ⅰ''　旧耕作土
Ⅱ　濁黄褐色粘質
Ⅲ　黒褐色粘質
Ⅳ　褐色粘質

T3東壁



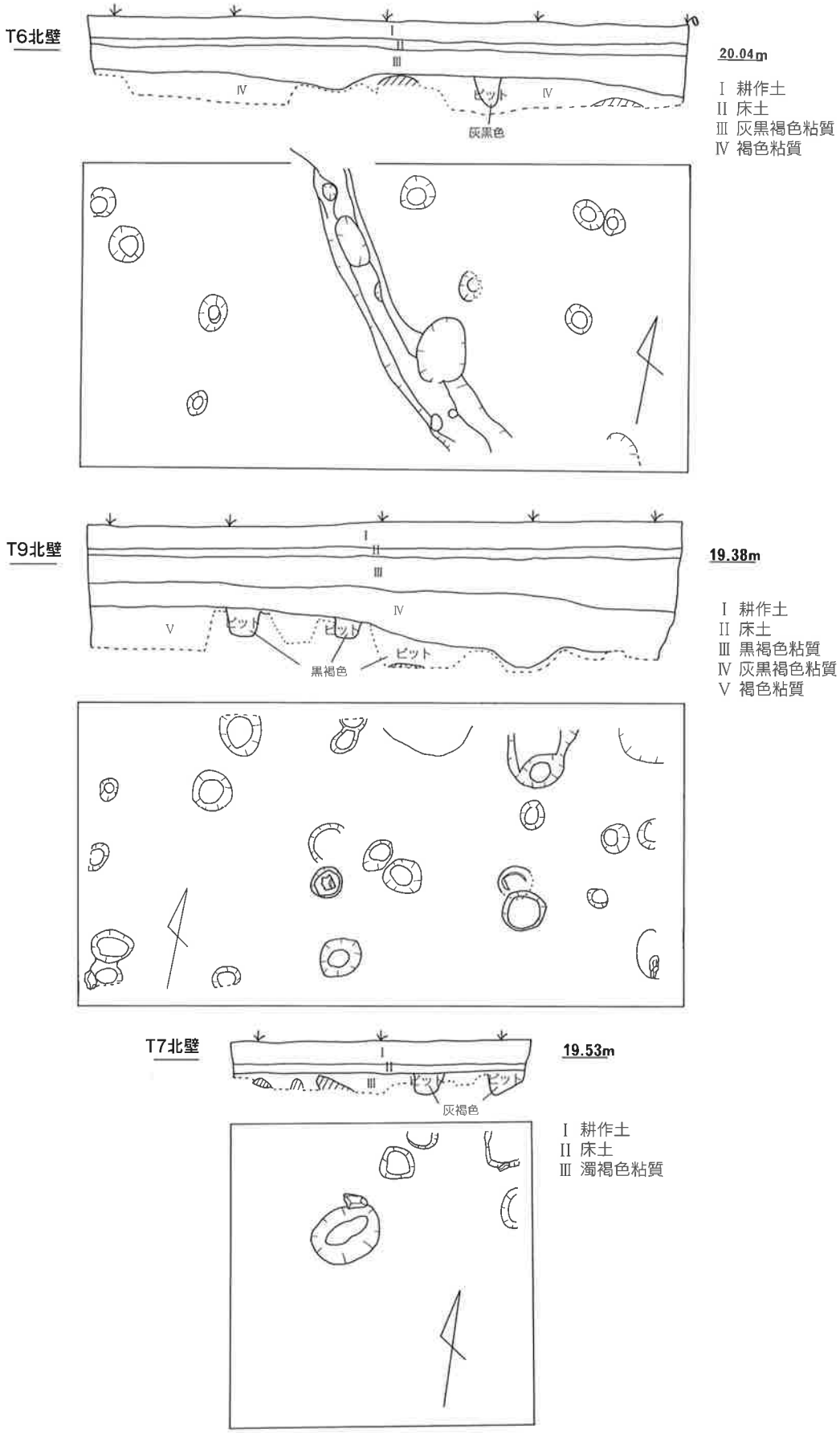
Ⅰ　耕作土
Ⅰ'　明灰赤褐色粘質
Ⅱ　撹乱
Ⅱ'　旧耕作土
Ⅲ　旧床土
Ⅳ　黒褐色粘質
Ⅴ　赤褐色粘質

T5北壁



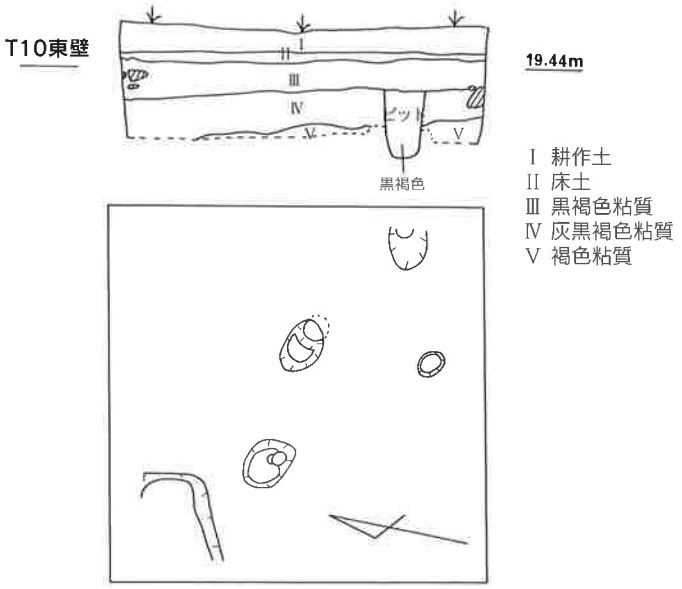
Ⅰ　耕作土
Ⅱ　床土
Ⅲ　灰黒褐色粘質
Ⅳ　濁黄褐色粘質
Ⅴ　褐色粘質

第25図　19次調査区土層・遺構配置図①(1/40)

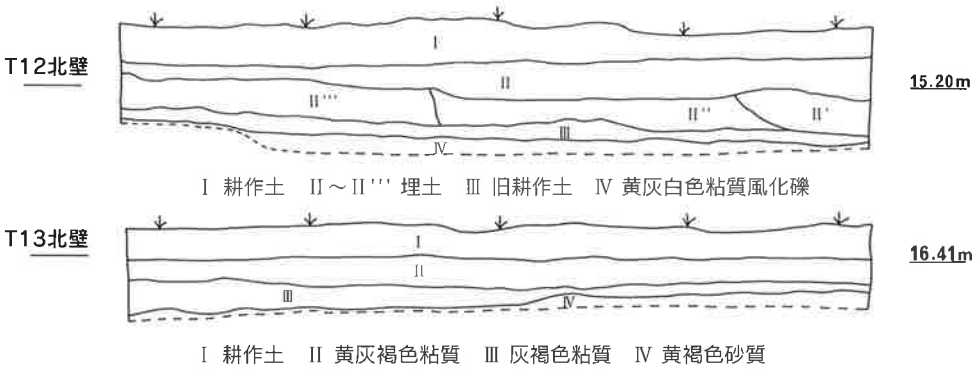


第26図　19次調査区土層・遺構配置図②(1/40)

7.2ｇ、Ｔ12埋土層出土。27は粘板岩製石庖丁である。穿孔は両面より行われおり、刃部は両面から研かれている。若干紐擦れの痕跡が認められる。重さ21.7ｇで、Ｔ10Ⅳ層出土である。28は弥生甕形土器の底部である。内面に２個の指圧痕がある。底径11.2㎝。29は壺の口縁部片で、口径約28.8㎝。30は龍泉窯系鎬連弁文青磁碗である。口径15.4㎝、Ｔ19Ⅲ層出土。31も同青磁碗で、底径６㎝、Ｔ９ピット10出土。
34は龍泉窯系で内面見込に花文を有する。釉は畳付まで施され、胎土は灰色。

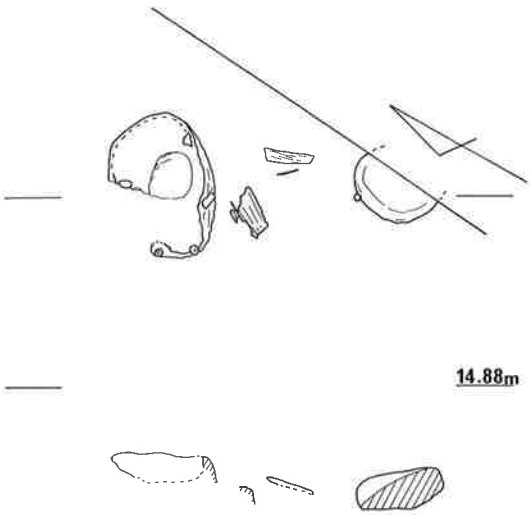


第27図　19次調査区土層・遺構配置図③(1/40)

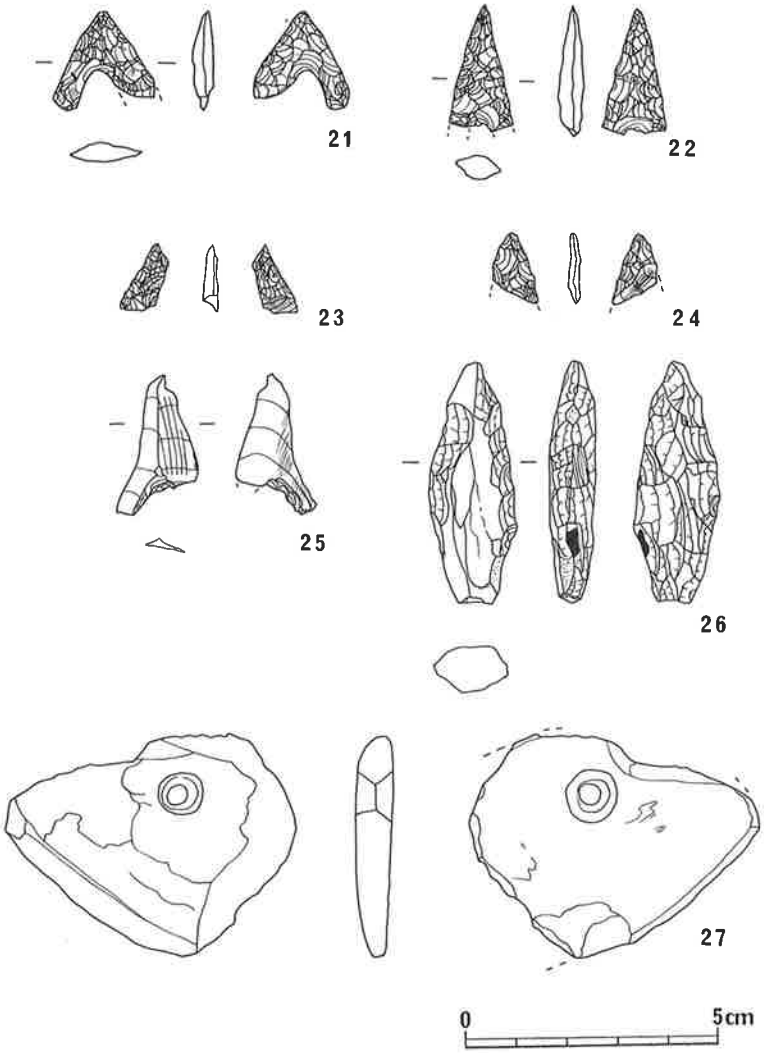


第28図　19次調査区土層図(1/40)

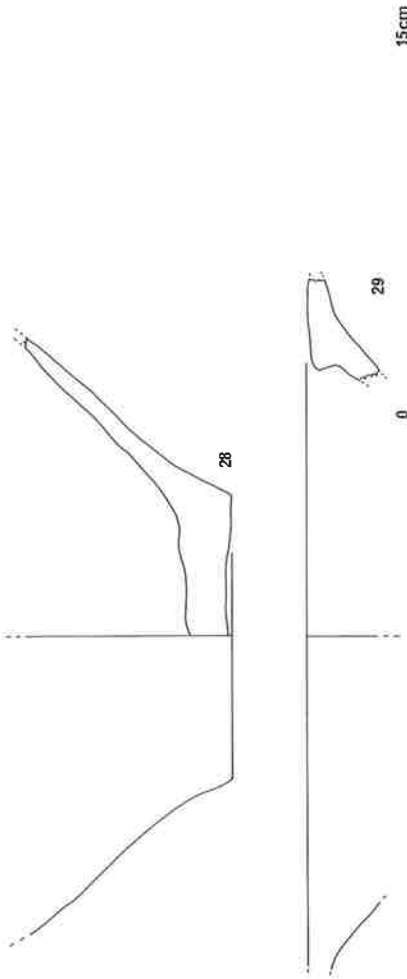
底径6.2㎝で、Ｔ３Ⅲ層出土。35も34と同様に花文を有している。全面に施釉している。胎土は灰色。
底径５㎝で、Ｔ３Ⅲ層出土。36は同安窯系碗で外面体部に櫛書きを有する。釉は淡灰緑色でＴ10Ⅲ層出土。35は同安窯系のⅢで口径10.2㎝、Ｔ10Ⅲ層出土。36は李朝陶器で象眼が施された瓶である。Ｔ９Ⅲ層出土。38は滑石製石錘である。Ｔ６Ⅲ層出土。その他の遺物では細片のため実測できなかったが石斧の刃部片、磨石、土師器、土師質土器、須恵器、須恵質土器、東播系須恵質土器、石鍋、白磁の口禿碗・Ⅲ、白磁碗・Ⅲ、天目碗、線書蓮弁碗などがある。



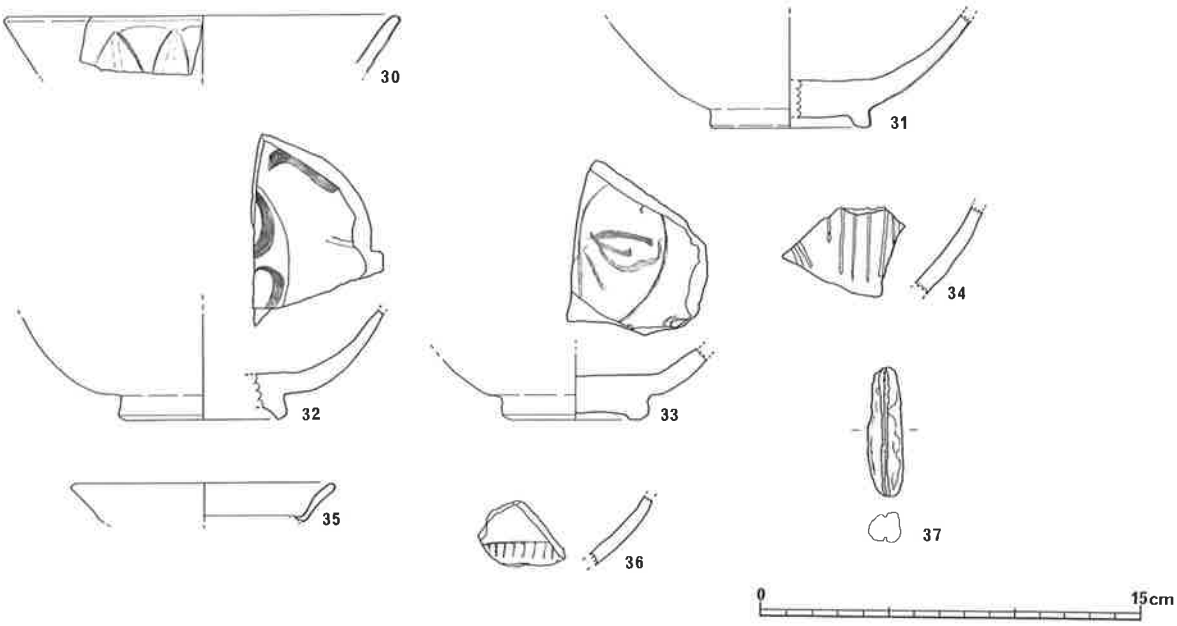
第29図　19次調査区人骨出土状況図(1/10)



第30図　19次調査区出土遺物①(2/3)



第31図　19次調査区出土遺物②(1/3)



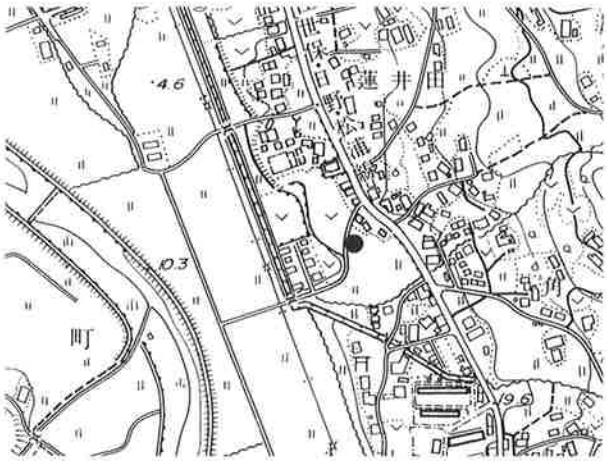
第32図　19次調査区出土遺物③(1/3)

第Ⅳ章　平成17年度確認調査の概要

ここでは、平成17年度に国庫補助を受けて発掘調査を実施した久保園遺跡・寺ノ尾C遺跡・栢ノ木遺跡についてその調査経緯及び成果について以下に概説する。

1．久保園遺跡（第33図～第46図）

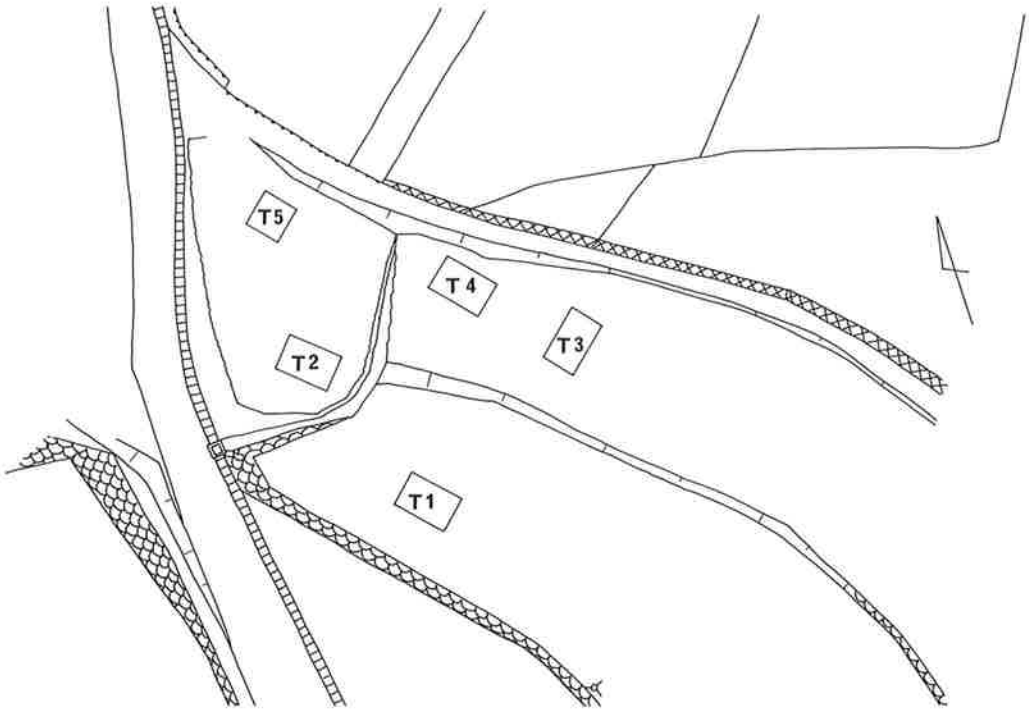
立地　久保園遺跡は市の中心部を流れる志佐川右岸に沿って伸びた河岸段丘の末端部に位置している。段丘の先端部には中世の海城の性格を有している陣ノ内城跡、南側の沖積平野には古墳時代の竪穴住居跡や箱式石棺墓から中世までの集落である宮ノ下リ遺跡が立地している。遺跡のすぐ東側には県道佐世保・日野・松浦線が走っている。



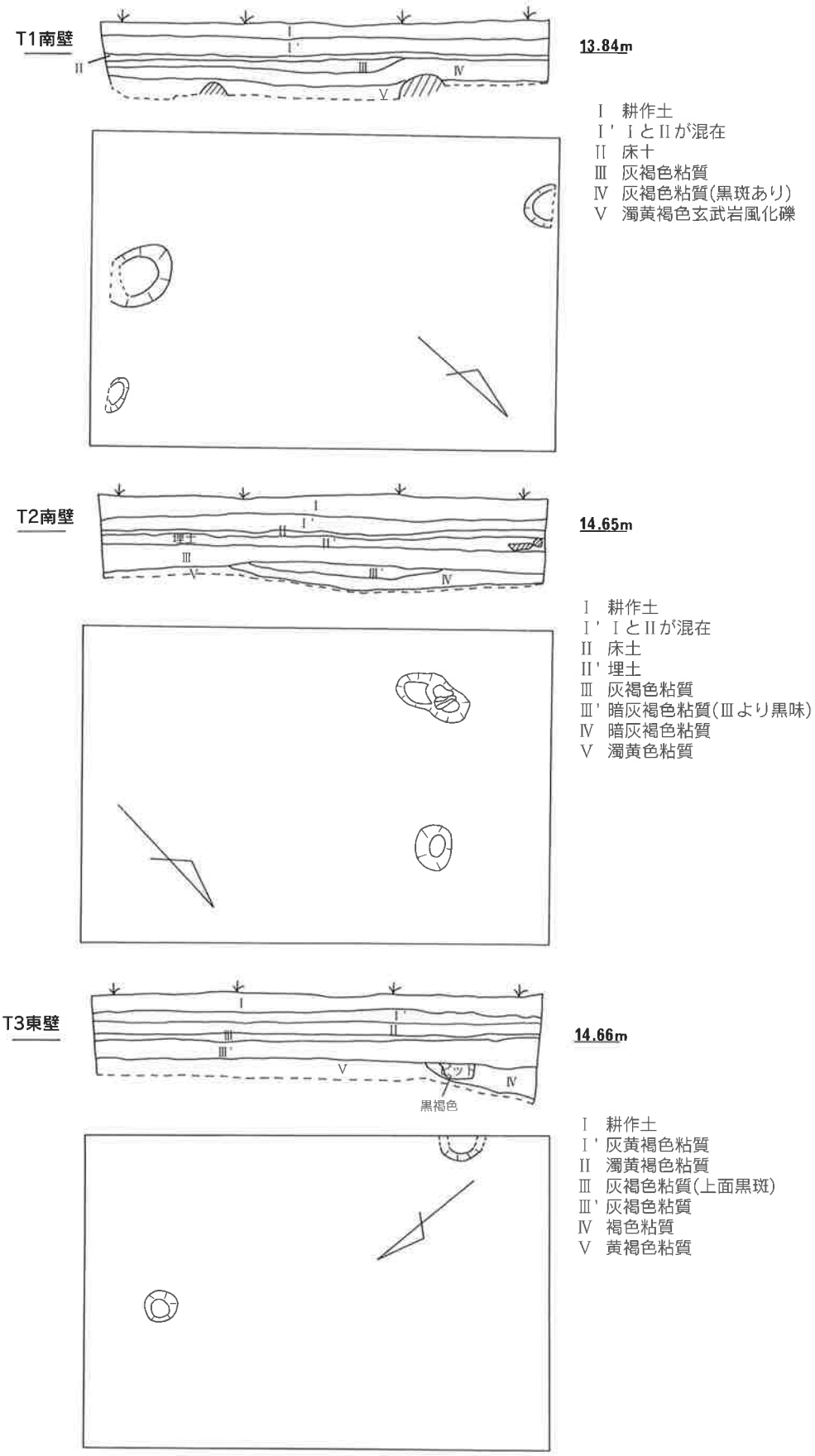
第33図　久保園遺跡位置図(1/10,000)

平成７年度には今回の調査地点より北に約20ｍの標高約16ｍから17ｍの畑地で個人住宅建築に伴う確認調査を実施している。その際には耕作土直下に上部が削平された中世期の柱穴・土壙を検出している。

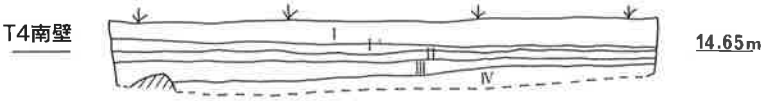
調査　今回の確認調査は第２次調査とし、第１次調査地点より南側の地点で若干低くなった標高約14ｍと約14.8ｍの２枚に分かれている水田の一部である。調査は個人の宅地建築に伴う確認調査で、



第34図　２次調査区設定図(1/400)

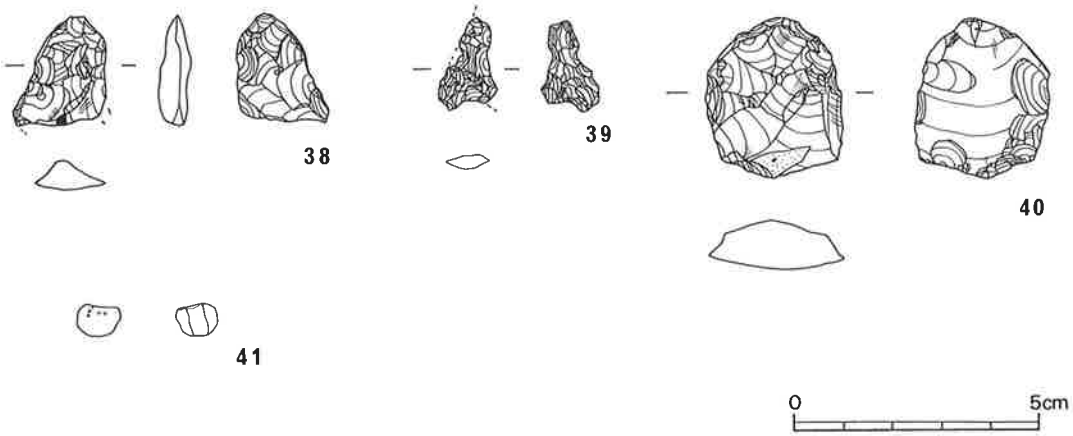


第35図　２次調査区土層・遺構配置図(1/40)

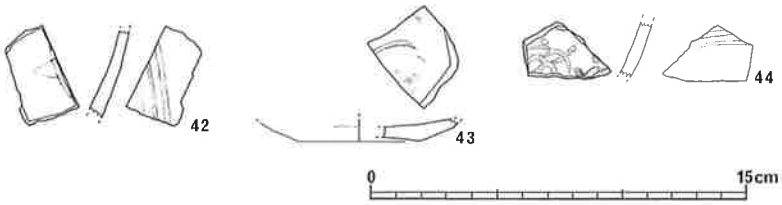


Ⅰ 耕作土　Ⅰ' 灰黄褐色粘質　Ⅱ 濁黄灰褐色粘質　Ⅲ 灰褐色粘質　Ⅳ 黄灰褐色粘質

第36図　２次調査区土層図(1/40)



第37図　２次調査区出土遺物①(2/3)



第38図　２次調査区出土遺物②(1/3)

平成17年９月12日から９月21日までの10日間実施した。宅地建築に伴う開発面積は363㎡であった。調査区は２ｍ×３ｍを４箇所、２ｍ×２ｍを１箇所の合計28㎡を調査した。調査の結果、遺構と遺物包含層が確認できたＴ２・Ｔ３区が位置している水田は工事の計画では削平される部分となっているため、その保存についての協議を行った。宅地の位置から設計変更によって保存ができないため、この削平される部分の本調査を引き続き実施することとなった。また、Ｔ１区がある一段低くなった標高約14ｍの水田はそのままの状態で保存することとなった。本調査を第３次調査とし、この後に区別して報告をすることとする。

検出遺構　今回の調査では、５箇所の内３箇所のＴ１区～Ｔ３区の調査区で弥生・中世期の柱穴を検出した。柱穴はいずれも第Ⅲ層の灰褐色粘質土より掘り込まれており、いずれも水田の耕作によって柱穴の上面は削平されていた。いずれの柱穴とも上面の直径が約20㎝～35㎝前後で、深さも約８㎝前後から15㎝前後の大きさであった。Ｔ１区で３基、Ｔ２区で３基、Ｔ３区で２基の柱穴を検出している。掘立柱建物跡の存在が予想される。

出土遺物　Ｔ５区以外の調査区で遺物包含層が確認された。各調査区とも耕作土の下に水田の床土である灰黄褐色から濁黄褐色粘質土があり、遺物は第Ⅲ層の灰褐色粘質土層より多く出土している。

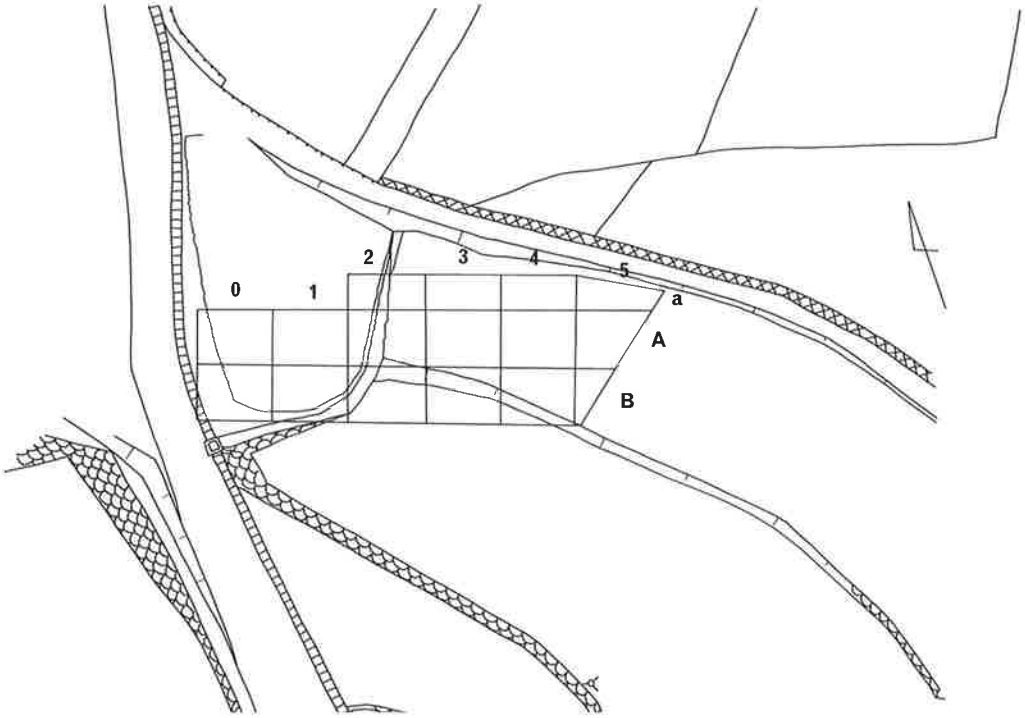
地山層は黄褐色で玄武岩の風化礫層となっている。Ｔ２区における第Ⅲ層の堆積では南側で約16㎝、北側で約21㎝となっていた。遺物は主に黒曜石製石鏃・剥片・砕片・スクレイパー・弥生土器・土師器・瓦器・輸入陶磁器・滑石・土錘など732点があった。図示できる資料が少なくそのほとんどが剥片・細片である。38は基部を欠損している黒曜石製石鏃である。ローリングを受けており磨滅している。重さ2.25ｇで、Ｔ２Ⅱ層出土。39は脚部と側縁部の一部を欠損している黒曜石製石鏃である。重さは0.55ｇで、Ｔ２Ⅰ層出土。40は黒曜石製の寸づまりの剥片をそのまま利用したスクレイパーである。重さ8.15ｇで、Ｔ４Ⅱ層出土。41はガラス玉の半載品である。全体に気泡が確認できる資料で、色調は明るい緑色を呈している。重さ0.4ｇで、Ｔ２Ⅲ層出土。42は同安窯系青磁碗で外面体部に幅広の縦の櫛目文が施されている。内面には花文が描かれている。釉は黄褐色を呈している。Ⅲ－１ｂ類。Ｔ３Ⅱ層出土。43は同安窯系青磁皿で内面に箆による文様とジグザグ状の櫛点描文が見られる。釉は底部まではかかっていない。釉は黄灰色を呈している。Ⅰ－１ｂ類。Ｔ３Ⅲ層出土。44は粉青沙器で外面体部に二重圏の白土による象嵌が内面には花文が描かれている。胎土は灰色である。Ｔ２Ⅲ層出土。その他の遺物では、白磁ではⅣ類の玉縁口縁をもつ碗、口縁端部が平坦になっている資料、内面に花文を有する碗、口禿の皿、合子蓋など、青磁では体部に細線による蓮弁文を有する碗、青磁皿がある。ほかに黄釉鉄絵盤の口縁部の資料などがある。

本調査（第39図～第46図）

確認調査に引き続き平成17年10月３日から10月14日までの12日間にわたって調査を行った。調査は遺跡の保存ができない宅地建築で削平される水田部分で、確認調査で設定したＴ２～Ｔ４区の調査区がある地点とした。調査はグリット法による３ｍ×４ｍのメッシュに区切って行い、北から南へＡ・Ｂと付し、調査の経過により追加としてＡ列の北側にａ列を加えた。東西の軸では１～５の番号を付した。調査区の呼称についてはＡ１区・Ｂ４区と言うようにした。調査期間内における記録処置は、土層の堆積状況及び遺構の検出状況の写真撮影･実測図の作成を行った。写真撮影は、35ミリ判モノクロフィルム及びカラーリバーサルフィルムを使用した。実測図については土層図及び遺構配置図は1/20で作成し、甕棺墓については1/10を基本とし作成した。遺物の取り上げは同一層として一括して取り上げた。この本調査では最終的に 117㎡の発掘調査を行った。

調査区の層位は、Ⅰ層が現在の水田の耕作土であり、Ⅱ層は灰黄褐色粘質土層で水田の床土になっている。Ⅲ層及びⅣ層が遺物包含層である。Ⅲ層は灰褐色粘質土層で茶黒色の斑点が全体に見られ、固くしまっている。Ⅳ層が灰黒褐色粘質土層となっている。ここまでは調査区全体に見られるが、Ｂ４・Ｂ５区では灰黒褐色粘質の下に黒灰褐色粘質があり地山へと続いている。Ⅴ層は地山である黄赤褐色粘質土層及び黄赤褐色混礫層となっている。

検出遺構　調査区全面に柱穴を検出したが上面が削平されていたため掘立柱建物跡を復原するまでには至らなかった。Ａ１区で溝状遺構を２本検出した。２本とも起点が明らかではない。東に位置する溝は北東から南西方向へ流れる自然流路である。幅は約１ｍ、深さ約20㎝程度で、レンズ状を呈し

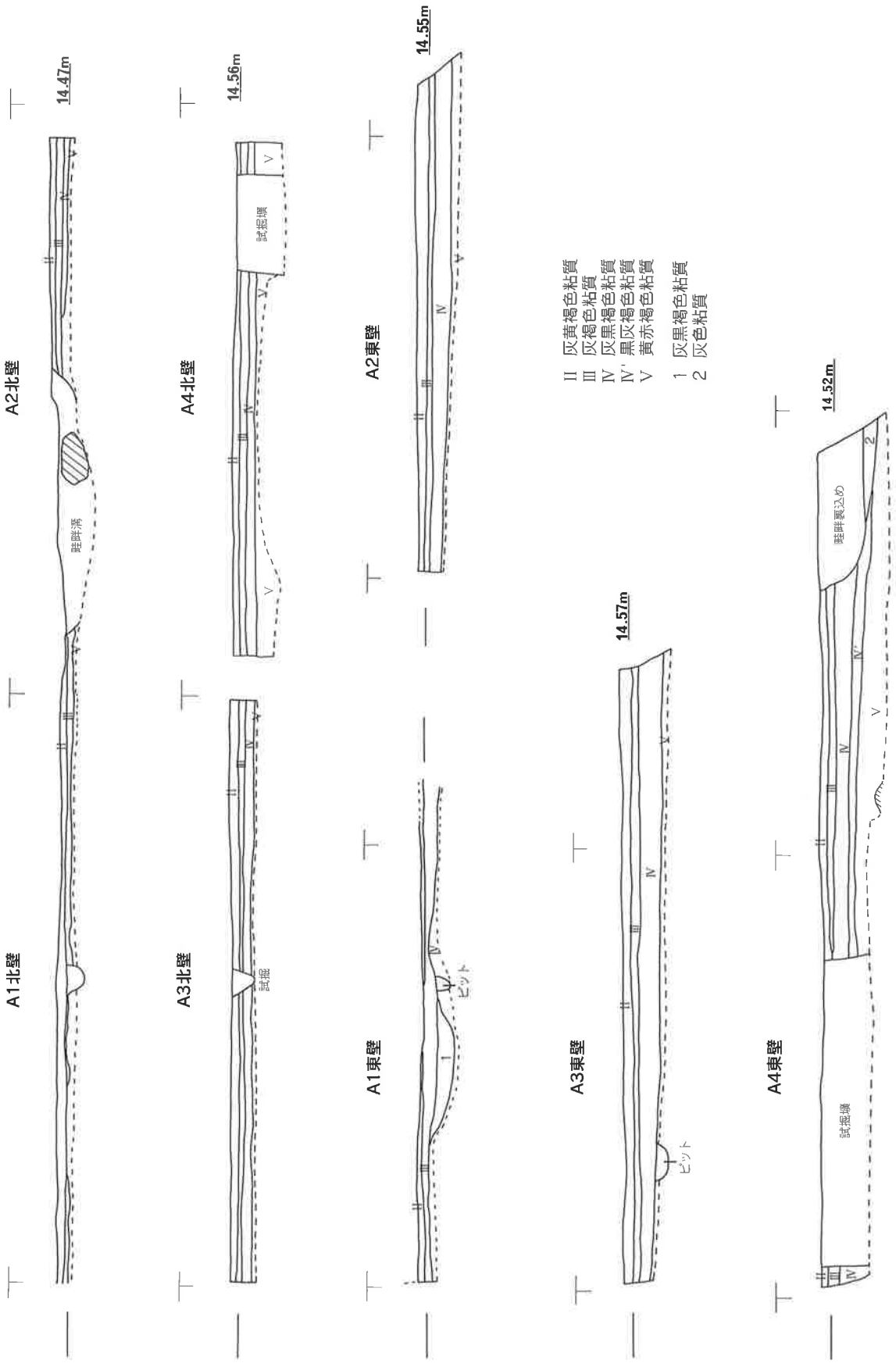


第39図　３次調査区設定図(1/400)

ている。杭列等は確認できなかった。もう１本はＡＯ区から延びて、北から南方向へ流れ、もう１本の溝と接するものである。長さ約５ｍ、幅約50㎝、深さは約５㎝～14㎝であった。今回の調査では特に注目される点が３基の甕棺墓を検出したことである。

１号甕棺墓は、ＡＯ区の東側で検出した。削平が著しいため全体の1/10程度の残りで遺存状況は極めて悪い。西側に甕の底部があるため本来の甕の口縁部は東側に位置していると思われる。よって頭位は東側である。検出状況は土壙の底面に張り付いたような状況で水平に近い状態で埋置されていると思われる。この甕棺墓に伴う人骨及び副葬品は検出されていない。甕は底部から約44㎝、最大幅26㎝での残存状況である。外面は明褐色を呈している。胎土に長石・石英粒を多く含んでいる。焼成は良好である。残存の器高は36㎝で、胴部中央に最大径がある甕と思われる。

２号甕棺墓は、１号甕棺墓が検出されたＡＯ区より南側へ約1.5ｍの地点で、ＡＯ区とＢＯ区にまたがって検出した。１号同様に西側に甕の底部を配置し口縁部は東に位置している。甕は全体の２／３がとんでいるような状態で検出された。土壙は東西80㎝、南北65㎝で、いびつな楕円形状を呈している。埋葬傾斜角は48°である。甕棺内からは人骨及び副葬品は検出されなかった。この２号甕棺は、口縁部は小さな逆「L」字で水平の平坦口縁で、やや内側に傾き気味である。口径は約58㎝である。胴部上半部に一条の細い三角形の突帯を巡らしている。底部より約12㎝の位置にあたる胴部下半部には、焼成後に外から穿孔された約２㎝×１㎝の穿孔痕が認められる。器面の内外面とも赤茶色を呈しており、調整はハケ目の後にナデ消している。底部は平底で底径は15㎝を計る。器高は約60㎝

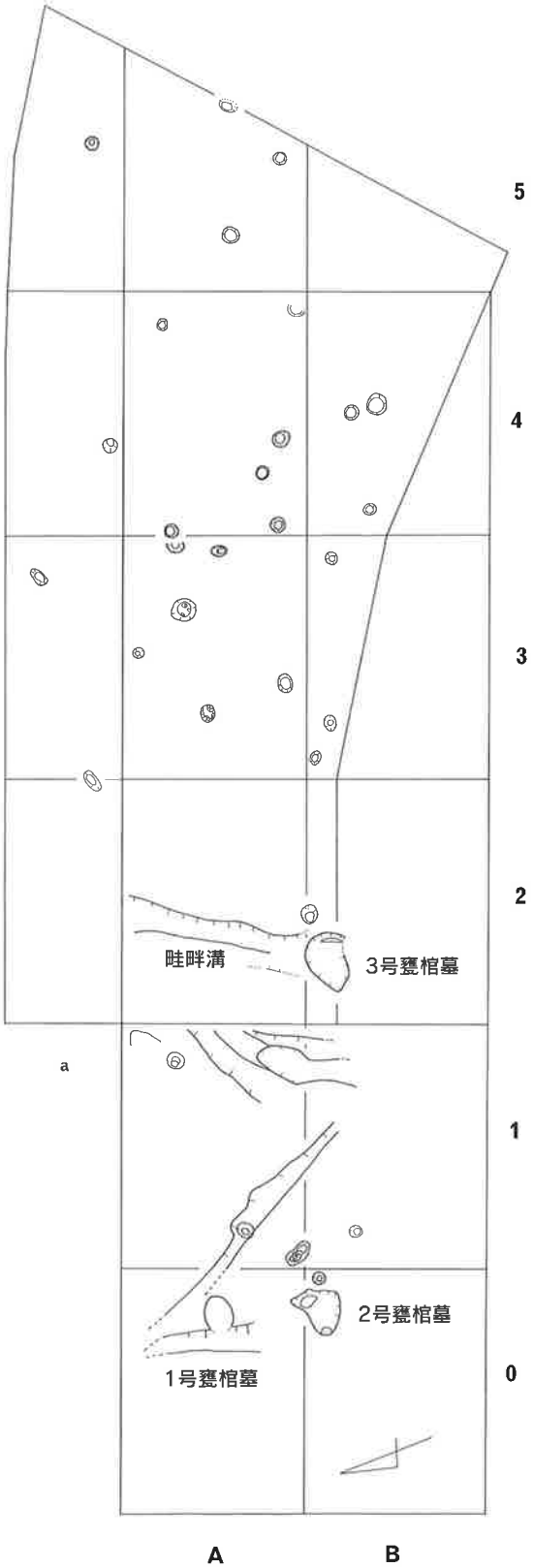


第40図　3次調査区土層図(1/40)

前後になるであろう。胎土には長石・石英と少量の雲母を含んでいる。甕棺の形式から時期は、橋口編年のＫⅡｂ式に近い。中期前半の資料である。

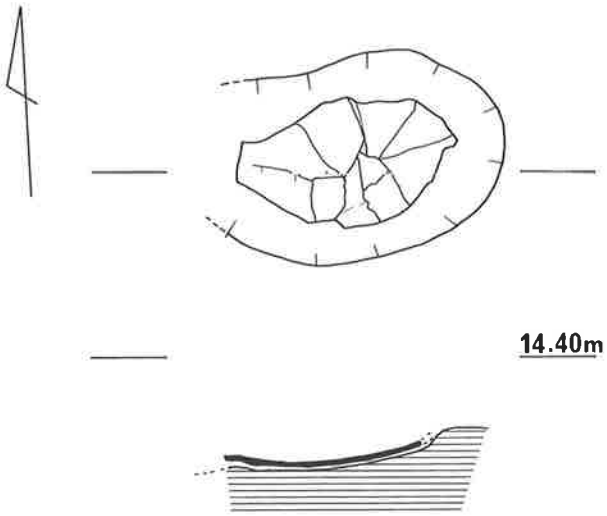
３号甕棺墓は、Ａ２区とＢ２区との境界地点で検出した。２号甕棺墓より東へ2.5ｍの地点にあたる。土壙は上面で90㎝×90㎝のほぼ円形で、深さは72㎝で、やや袋状に掘り込んでいる。南側部分は水田の畦畔により撹乱を受けている。また、この甕棺は水田の中を南に向かって走る水路用の溝の末端部に位置しており、遺構の一部が削平を受けているため、蓋石は検出されなかった。埋葬傾斜角は51°で、単棺である。甕棺内からは人骨及び副葬品は検出されなかった。この３号甕棺は、口縁部が逆「L」字状を呈し、外側への張り出しは極めて小さい。口縁上端に粘土帯を張付けている。胴部上半はすぼまり、胴部最大径には細いシャープな三角突帯が位置している。器高は80㎝前後になるものと思われる。口径は60㎝で、底部は平底を呈している。厚みは0.8㎝と均一に仕上げてあり、器面調整はハケ目の後に全面をナデてハケ目を消している。胎土には長石と石英粒を多く含んでいる。内外面とも褐色から淡褐色を呈しており、部分的に黒ずんだところが認められる。橋口編年のＫⅡａ式に近い。中期前半の資料である。

以上、甕の形式からいくと３号甕棺が古く、２号甕棺が新しいとの結論に達した。中期前半でも若干年代幅があるようである。これらの３基の甕棺については、



第41図　３次調査区遺構配置図(1/120)

内業整理の段階で遺物のナンバリング作業に時間を取られたため残念ながら甕棺の復原作業及び実測図の作成までには至らずこの報告書の刊行となってしまった。整理期間が限定されていたため言及できなかった点が多いことを反省している。今回の報告書では実測図等が掲載できていないため、次回の報告書で掲載することを許していただきその責務を果たしたい。

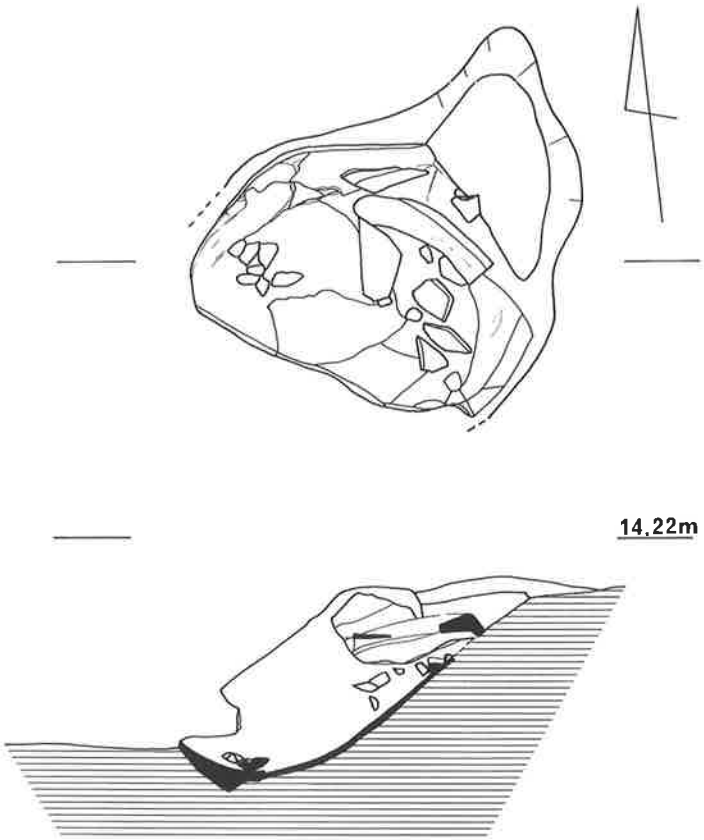


第42図　３次調査区１号甕棺墓実測図(1/15)

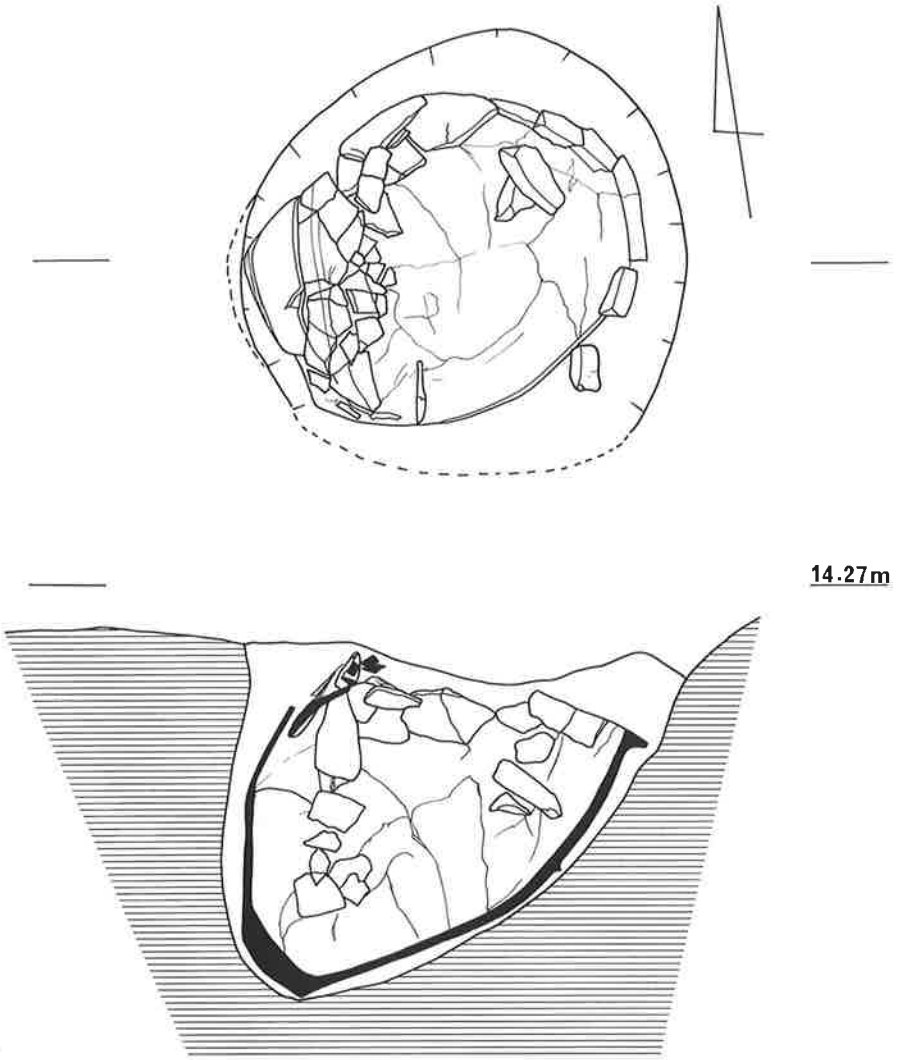
参考文献

橋口達也　1979　『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』ＸＸＸＩ　中巻　「甕棺の編年的研究」　福岡県教育委員会

宮崎貴夫　1983　『長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅵ』　長崎県文化財調査報告書第66集　長崎県教育委員会

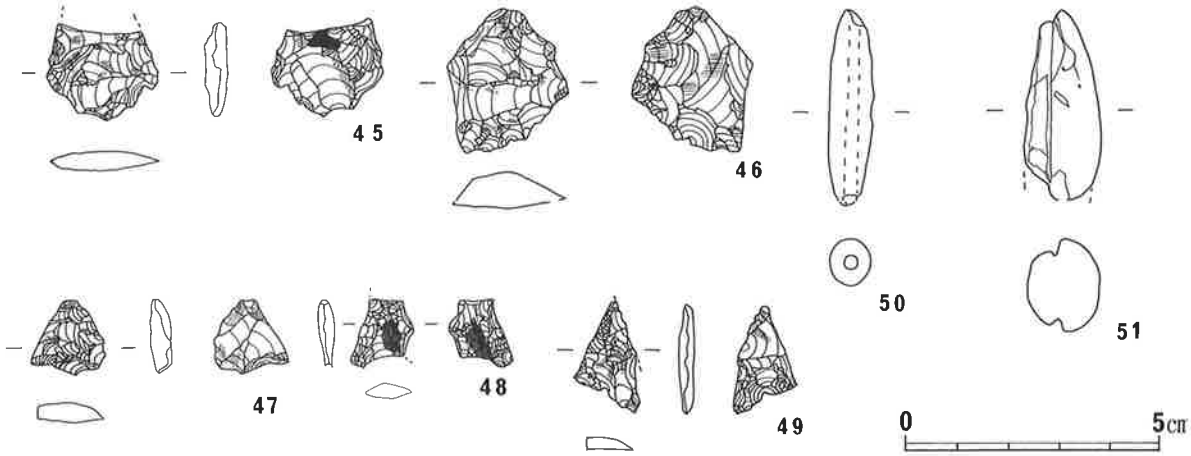


第43図　３次調査区２号甕棺墓実測図(1/15)

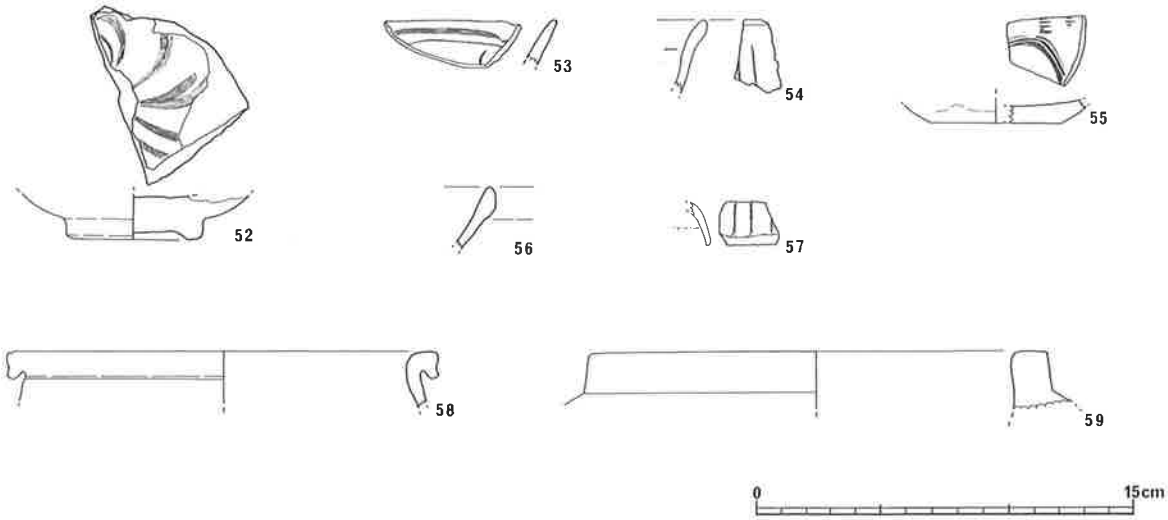


第44図　３次調査区３号甕棺墓実測図(1/15)

出土遺物　本調査では2,643点の出土があった。45は先端部を欠損している黒曜石製大形の石鏃と思われる。Ｂ４Ⅲ層出土。46は加工痕のある石器で一部欠損している。Ｂ４Ⅲ層出土。47～49は黒曜石製石鏃である。47は背面のみが調整剥離が行われており未製品であろうか。Ｂ４Ⅲ層出土。48先端部と脚部を欠損している。抉り部分の両面には調整剥離後の使用によるものなのか擦ったような状況で上下に削痕が認められる。Ｂ５Ⅲ層出土。49は側縁部を欠損している。Ａ３Ⅱ層出土。50・51は中世期の遺物である。50は紡錘形の土錘で、長さ3.9㎝・幅0.9㎝で、重さ2.3ｇある。ＡＯⅡ層出土。51は滑石製石錘である。長軸中央部を一周する溝を作り、削り痕を磨き消した石錘である。断面は円形を呈しており、重さ12.1ｇで、Ｂ５Ⅲ層出土である。52は龍泉窯系青磁碗で内面見込みに片彫蓮花文を有している。深緑色の釉が薄くかかっており、外面見込みまで一部施釉されている。全体に貫入が認められる。底径4.2㎝で、Ⅰ－２ｂ類。Ａ５Ⅲ層出土。53は龍泉窯系青磁碗で口縁端部に輪花を有し、内面に花文と飛雲文を施している。釉は淡緑色で、Ⅰ－４ｂ類。Ｂ４Ⅲ層出土。54



第45図　３次調査区出土遺物①(2/3)



第46図　３次調査区出土遺物②(1/3)

は白磁碗で外面体部に縦櫛目文がみられ、口縁端部はやや外反している。Ｖ－２ｂ類。ＡＯⅢ層出土。55は内面見込みに箆による文様とジグザグ状の櫛点描文を有する同安窯系青磁皿である。Ｉ－１ｂ類。Ｂ５Ⅲ層出土。56は白磁碗の玉縁の口縁部分である。白濁釉が薄く全体にかかっているⅣ類の資料である。Ａ５Ⅲ層出土。57は白磁合子蓋である。外面に白色釉の連子を有しており、胎土は白灰色である。Ｂ４Ⅲ層出土。58は口縁端部を玉縁状に肥厚させた陶器の壺である。胎土に白色砂を含む。口径は16.4cmで、Ａ３Ⅲ層出土。59は滑石製石鍋の口縁部分で、鍔がつくタイプである。口径は18.2cmを計る。Ａ５Ⅲ層出土である。

2．寺ノ尾Ｃ遺跡（第47図～第50図）

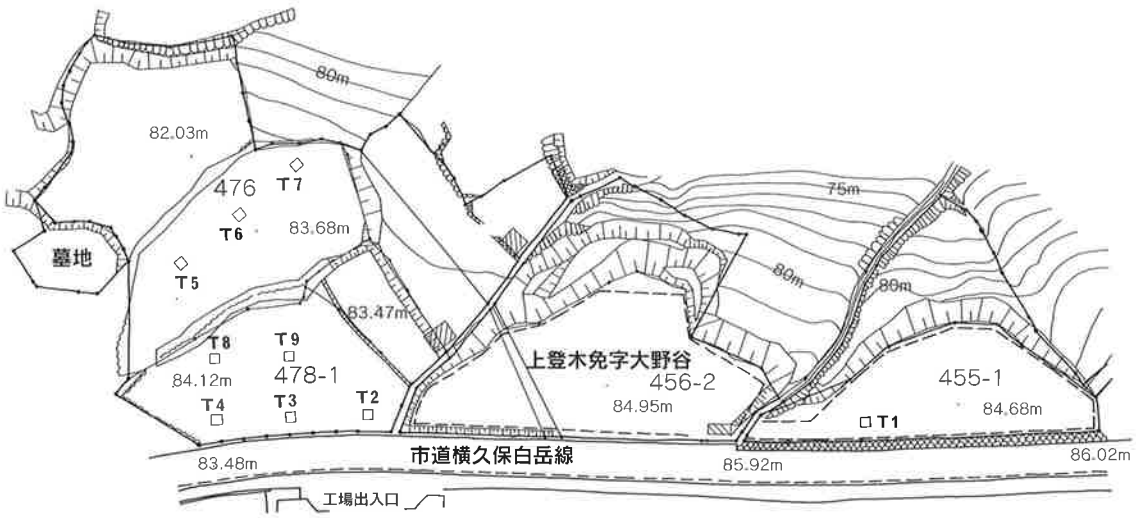
第47図　寺ノ尾Ｃ遺跡位置図(1/10,000)

立地　寺ノ尾Ｃ遺跡は市の西部玄武岩台地上の丘陵部に位置しており、遺跡の南側には竜尾川が北流している。遺跡の中央部を市道横久保・白岳線が、東側には中野・寺ノ尾線が走っている。遺跡の範囲は市道の周辺部と一段低くなった水田部とに分かれており、付近には東に寺ノ尾Ａ遺跡・寺ノ尾Ｂ遺跡、西に横久保遺跡が立地している。

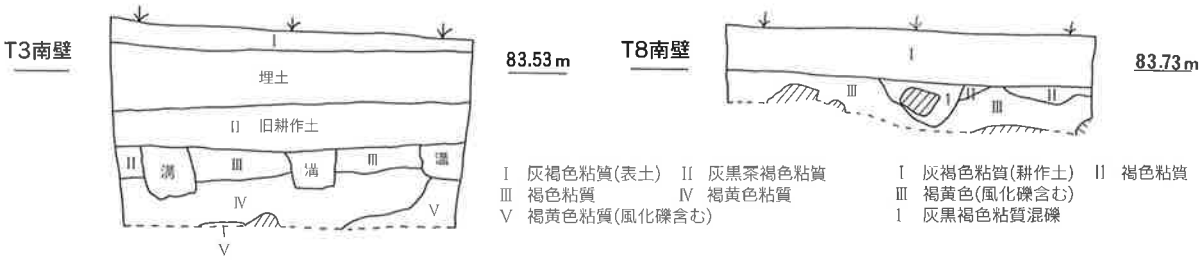
調査　寺ノ尾Ｃ遺跡についてはこれまで４次にわたる確認調査を実施しており、第１次調査にあたる平成元年度の水田部分の調査では旧石器の遺物包含層が検出されている。その他の調査は東西に走る市道の周辺部での確認調査であり、いずれの調査でも良好な包含層の検出には至っていない。今回の調査は第５次調査にあたり、市道の北側の民有地に民間企業用の資材置場及び駐車場の整備を行う計画で、総面積は6,747㎡であった。調査は計画地に２ｍ×２ｍの調査区を９箇所設定し36㎡を調査した。調査は平成17年11月１日から11月11日までの期間実施した。

検出遺構　今回の調査ではいずれの調査区からも遺構を検出することはできなかった。ただし、調査区のＴ２～Ｔ４区とＴ８区・Ｔ９区を設定した畑からは、土地所有者の聞き取りであった畑の造成の痕跡と近年までゴボウが植え付けされていた畝の痕跡が認められた。

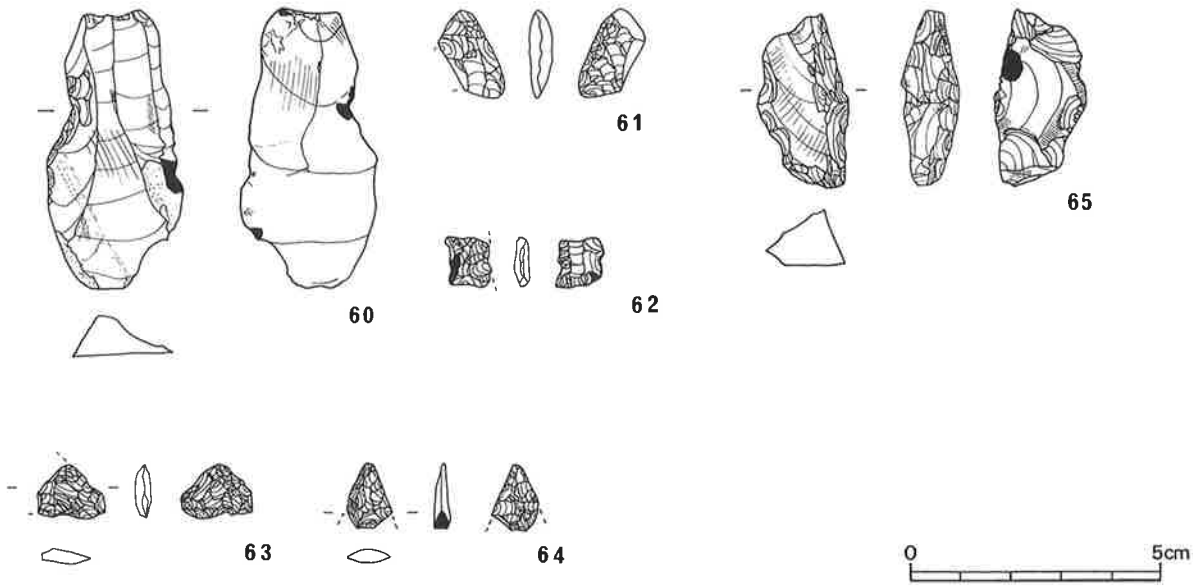
出土遺物　遺物は合計で226点出土している。黒曜石製石鏃・剥片、安山岩製剥片・砕片、弥生の甕形土器の胴部片、現代の陶磁器類がある。しかし、図示できる資料が少ない。60は縦長剥片を利用した使用痕ある剥片である。全面パティナに覆われており旧石器の資料と思われる。Ｔ２埋土層出土。61～64は黒曜石製石鏃である。61は基部が浅く正三角形を呈している。側縁から基部にかけて欠損



第48図　５次調査区設定図(1/1,500)



第49図　５次調査区土層図(1/40)



第50図　５次調査区出土遺物(2/3)

している。Ｔ９埋土層出土。62は形状が不明であるが調整加工が施されているため石鏃として分類した。Ｔ９Ｉ’層出土。63は先端部から側縁部を欠損し、基部から脚部が残存している資料である。基部の抉りは浅く直線的である。Ｔ４II層の旧耕作土出土である。64は先端部のみの資料で先端角度は鋭角に仕上げている二等辺三角形状を呈するのであろう。Ｔ７Ｉ層出土である。65は三稜尖頭器であろうか。一側縁のみ主要剥離面側より急傾斜の調整が行われている。断面も三角形状を呈している。長さ3.5㎝・幅1.8㎝・厚さ1.1㎝、重さは5.5ｇである。Ｔ３II層の旧耕作土の出土である。今回の調査では、旧石器の遺物も出土しているが明確な包含層からの出土ではなかった。過去の調査においても周辺では百花台タイプの台形石器・半舟底形細石核・局部磨製石鏃・鍬形鏃等が表採されているがこれらの時期に関する遺構の検出には至っていない。今後の開地遺跡における調査に期待したいと思っている。

３．栢ノ木遺跡（第51図～第57図）

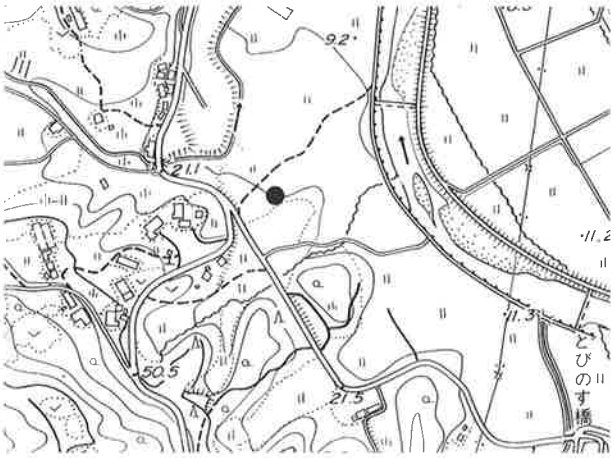
立地　栢ノ木遺跡は市の中心部で、志佐川下流域の左岸と志佐川の支流である佐々山川の流域の水

田地帯に位置している。遺跡は東西約600m、南北約900mの広範囲に分布している。志佐川の対岸の沖積平野及び河岸段丘上には古墳時代の竪穴住居跡・箱式石棺墓が検出された宮ノ下り遺跡・本年度の調査で弥生期の甕棺墓３基と中世期の柱穴が検出された久保園遺跡・中世の海城の性格が強い陣ノ内城跡が立地している。

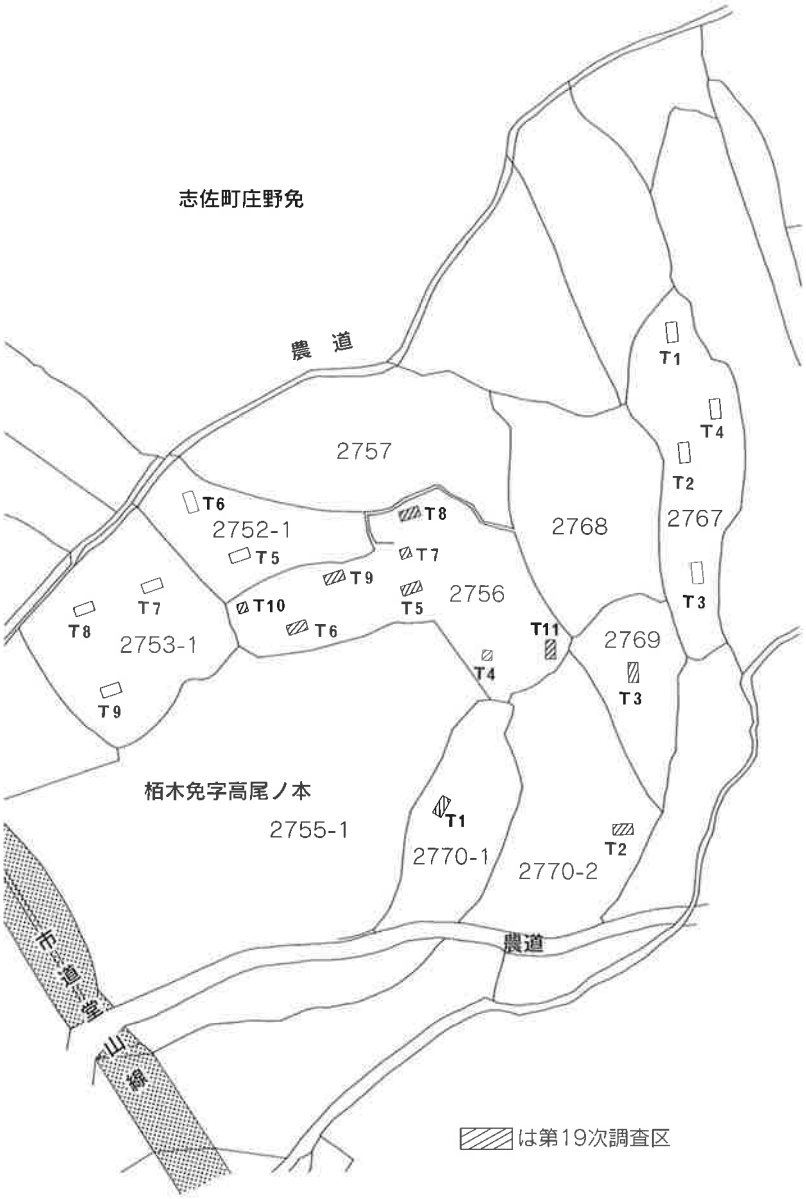
栢ノ木遺跡は志佐川に隣接しているため、水田耕作に適した地理条件に恵まれている所である。これまで19回におよぶ本調査・確認調査・試掘調査が行われている。遺跡の中心部分は昭和46年に最初の調査が行われた地点周辺と思われ、箱式石棺墓３基、甕棺墓３基が検出されている。特に２号石棺内からは中国製の青銅鏡（内行花文鏡）が出土しており、首長クラスの存在がうかがえる遺跡として重要性が指摘されている遺跡でもある。

調査　今回の栢ノ木遺跡の調査は、第20次調査にあたり、前年度の調査地点の北側を中心に遺跡の広がりを確認するために実施した。調査地点は平成17年度で柱穴等の遺構が検出された地点の北側部分にあたる水田部を選んで調査区を設定した。調査区は２m×４mを９箇所設定し、72㎡を調査した。調査は平成17年11月17日から12月14日までの期間実施した。

検出遺構　この調査で確認した遺構は、Ｔ２区とＴ４区でそれぞれ土壙を１基検出した。調査区の



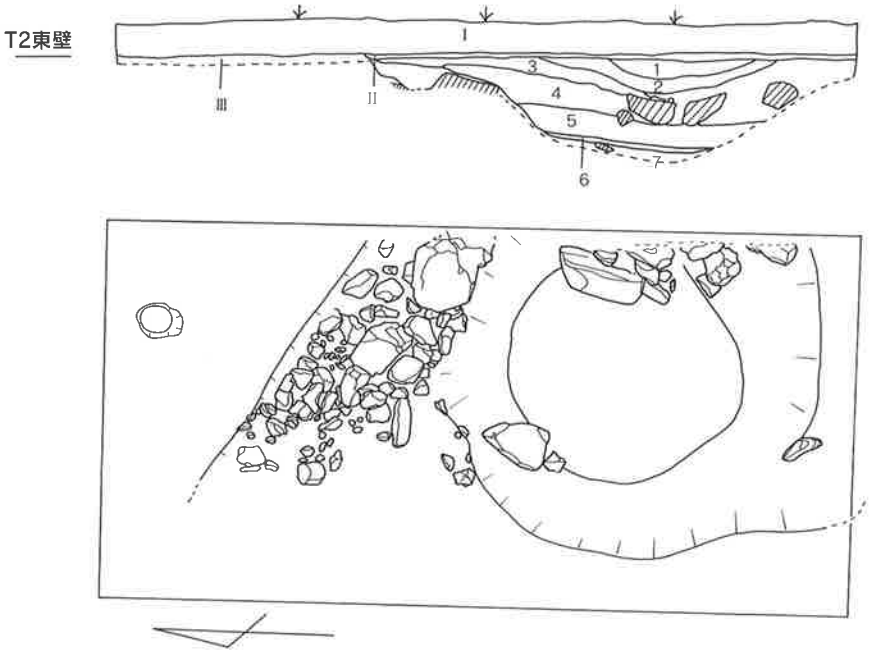
第51図　栢ノ木遺跡位置図(1/10,000)

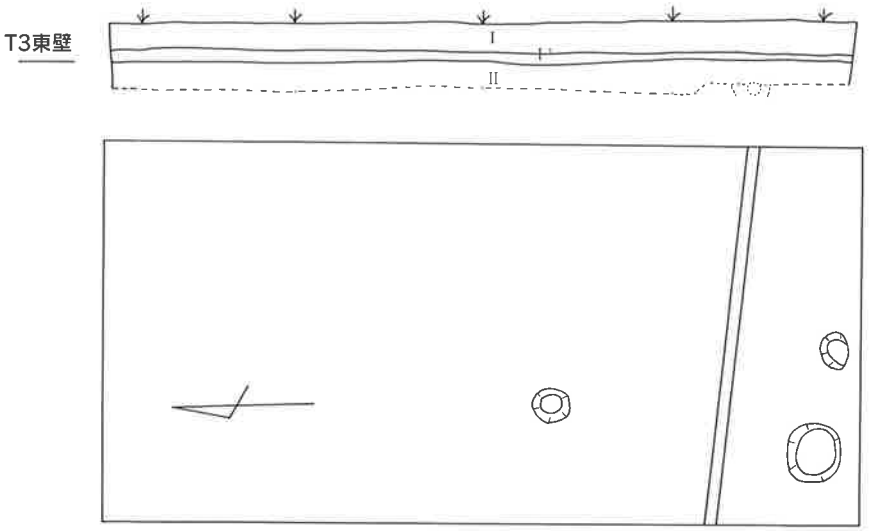


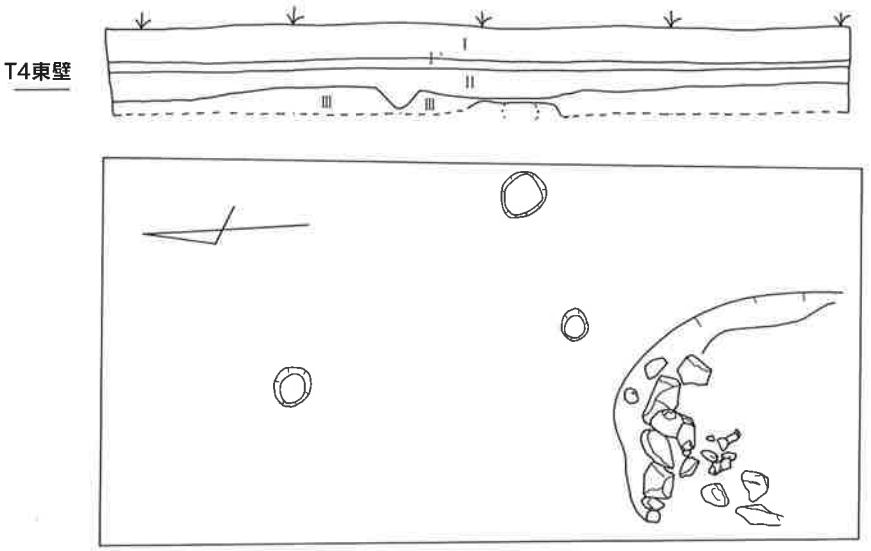
第52図　20次調査区設定図(1/1,500)

みの検出にとどめ拡張は行わなかった。どちらも調査区外に広がっていることが予想されるため遺構全体の規模等については推定の域をでない。Ｔ２区ではほぼ円形を呈し、土壙上面で約2.4＋αｍで、の底面で約1.2ｍで、遺構上面からの深度は約0.6ｍであった。この土壙に付随するのか北側に礫を敷き詰めた部分が検出された。土壙上面は茶褐色の固い鉄分層があり、炭化物を含む層、粘土層の下部に木の葉を敷いた状況も観察された。遺構内からは81～86の遺物が出土しているがその他では、縄文・弥生期の合計92点の遺物が出土している。この遺構については掘り方がしっかりとしており、人為的に掘られた穴という印象がある。廃棄物の処理などを目的とした遺構ではないかと考えている。Ｔ４区の土壙は調査区の南側で検出した。全体の約１／４の検出で隅丸方形状を呈している。遺構上面からの深さは約20㎝と浅く底面はほぼ平坦になっている。内部から縄文・弥生・中世期の遺物が11点出土している。この遺構については性格・用途は不明である。この他の遺構ではＴ１区を除くすべての調査区から柱穴を検出した。柱穴は上面で20～30㎝の直径に収まるものがほとんどで、柱穴内の遺物から弥生と中世の時期があるようだ。この点は第19次の調査でも同じような結果が得られており、付近一帯にはまだ柱穴の存在が予想される。

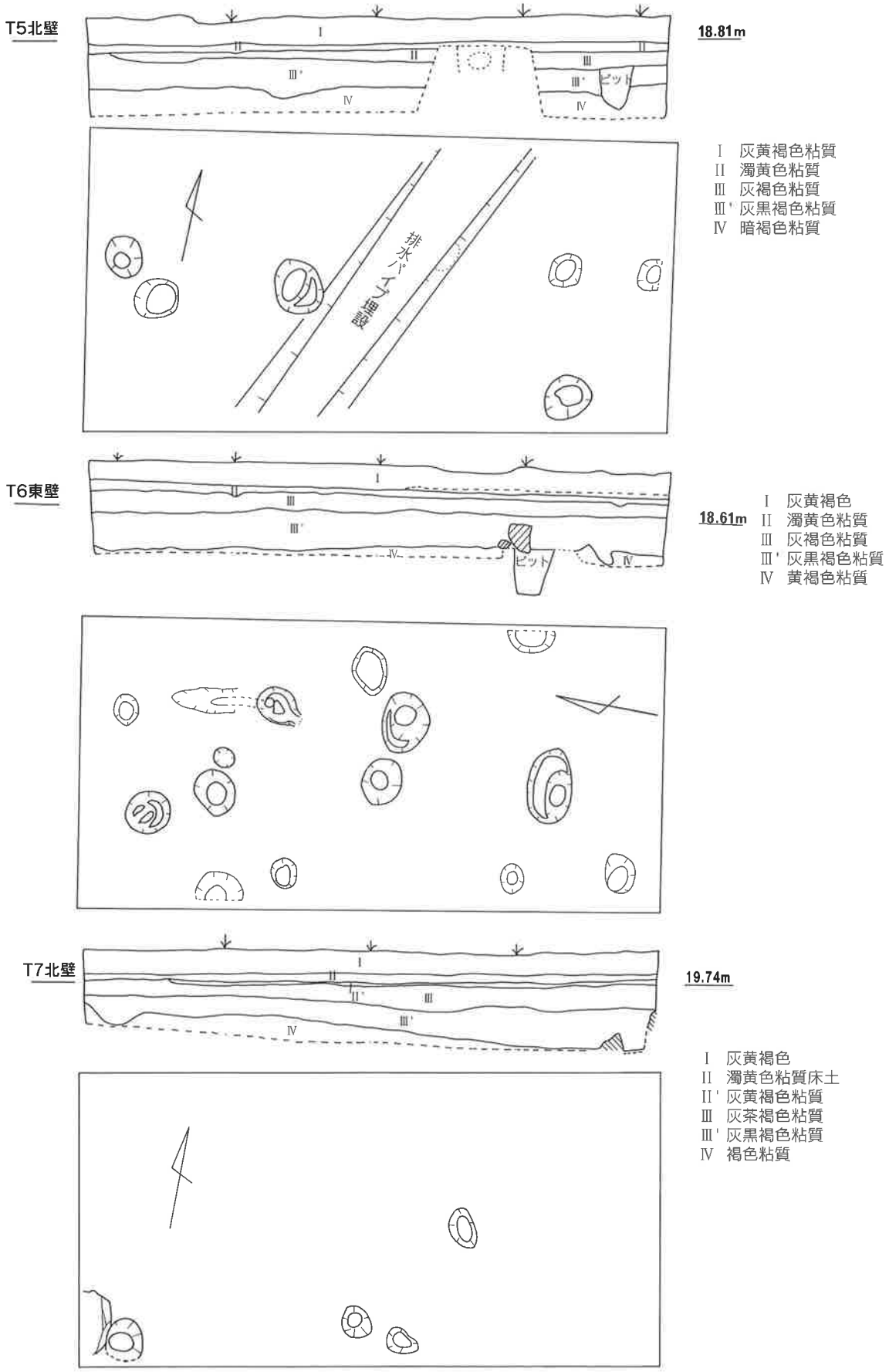
出土遺物　今回の第20次調査では、3,366点が出土している。しかし、多くの種類があるにもかかわらず実測できる資料が少ない。このうち黒曜石製石鏃は５点、弥生土器９点、中世の遺物９点を図示している。66は基部を欠損している石鏃で、先端部を鋭角に加工した二等辺三角形状を呈するものである。調整加工も丁寧に行われている。Ｔ６Ⅲ層出土。67も先端部を欠損している資料で、正三角形状を呈している。Ｔ５Ⅳ層出土。68は片方の脚部を欠損している資料である。基部の抉りも器形の半分まで行われており、側縁部は丸みをおそびた鍬形鏃である。長さ２㎝・幅約２㎝・幅0.35㎝・重さ0.7ｇである。Ｔ５Ⅳ層出土。69は大型の二等辺三角形状を呈する資料で、基部から脚部を欠損している。Ｔ４Ⅰ層出土。70は磨製石鏃で擦痕が顕著に認められる資料である。長さ1.5㎝・幅1.4㎝・厚み0.3㎝、Ｔ５Ⅳ層出土。71は土錘である。中央部のふくらみがなく、細身紡錘形を呈している。長径3.6㎝・短径１㎝・重さ3.85ｇ、Ｔ４Ⅲ層出土。72は長軸に溝を一周めぐらした滑石製石錘である。溝の深さは0.2㎜と浅い。長軸3.7㎝・短軸1.05㎝、重さ8.7ｇ、Ｔ６Ⅲ層出土。73～80は弥生土器である。73は逆Ｌ字状口縁部で、口縁部はほぼ平坦である。胎土は粗く長石・石英を多く含んでいるが、内面は別の粘土を薄く貼付けその後にヨコナデ調整を行っている。復原口径は35.6㎝で、Ｔ６Ⅲ層出土。74は口縁下部に１条の三角突帯を張付けており、胎土は粗い。復原口径は27.4㎝である。Ｔ７Ⅲ層出土。75は口縁部がほぼ平坦で外側にはあまり発達していない。突帯はもたず胴部は張らずに直行する。復原口径は18㎝を計る。Ｔ７Ⅲ層出土。76は壺形土器で、外面淡赤褐色、胎土に長石・石英を多く含み内外面ともナデ調整。復原口径21.4㎝を計る。Ｔ７Ⅲ層出土。77は高坏のソケットの資料で、外面は茶褐色を呈している。Ｔ７Ⅲ層出土。78～80は深鉢の底部の資料である。78は底部からの立ち上がり部分が極端に薄く仕上げてある。内外面赤橙色で復原底径は6.8㎝を計る。Ｔ８Ⅲ層出土。79は上げ底を呈しており、ハケ目調整が施されている。胎土は粗く長石・石英を多く含む。復原底径は9.4㎝を計る。Ｔ７Ⅲ層出土。80は上げ底状を呈している。胎土は粗く、復原底径



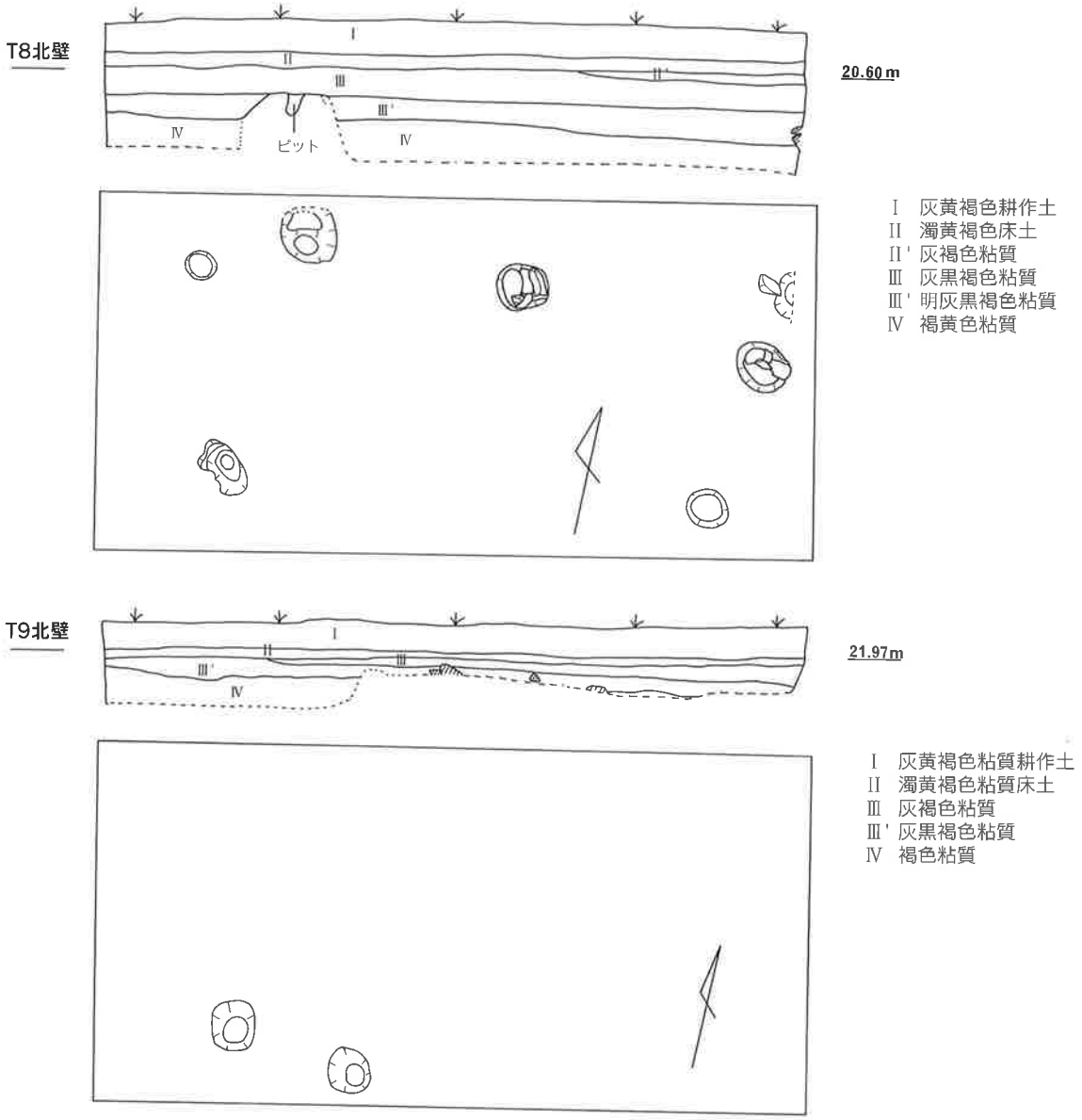




第53図　20次調査区土層・遺構図①(1/40)

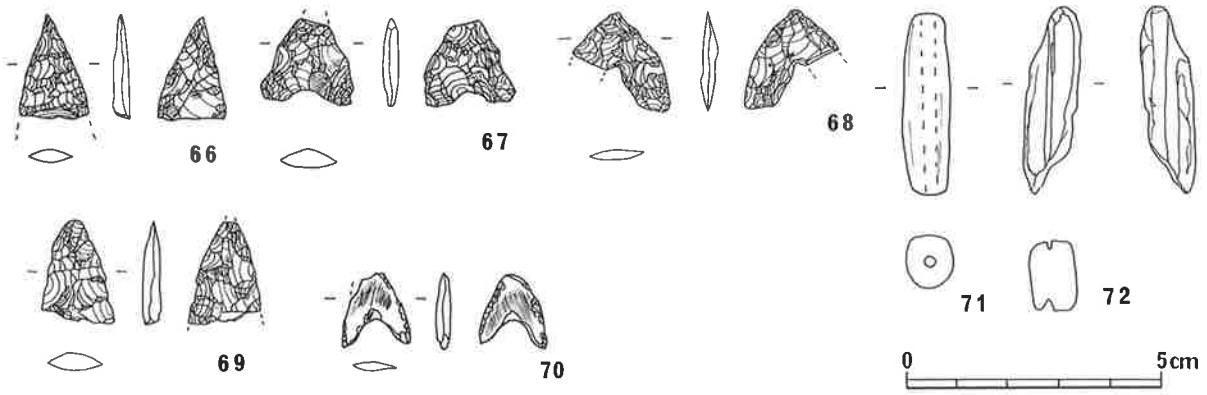


第54図　20次調査区土層・遺構図②(1/40)

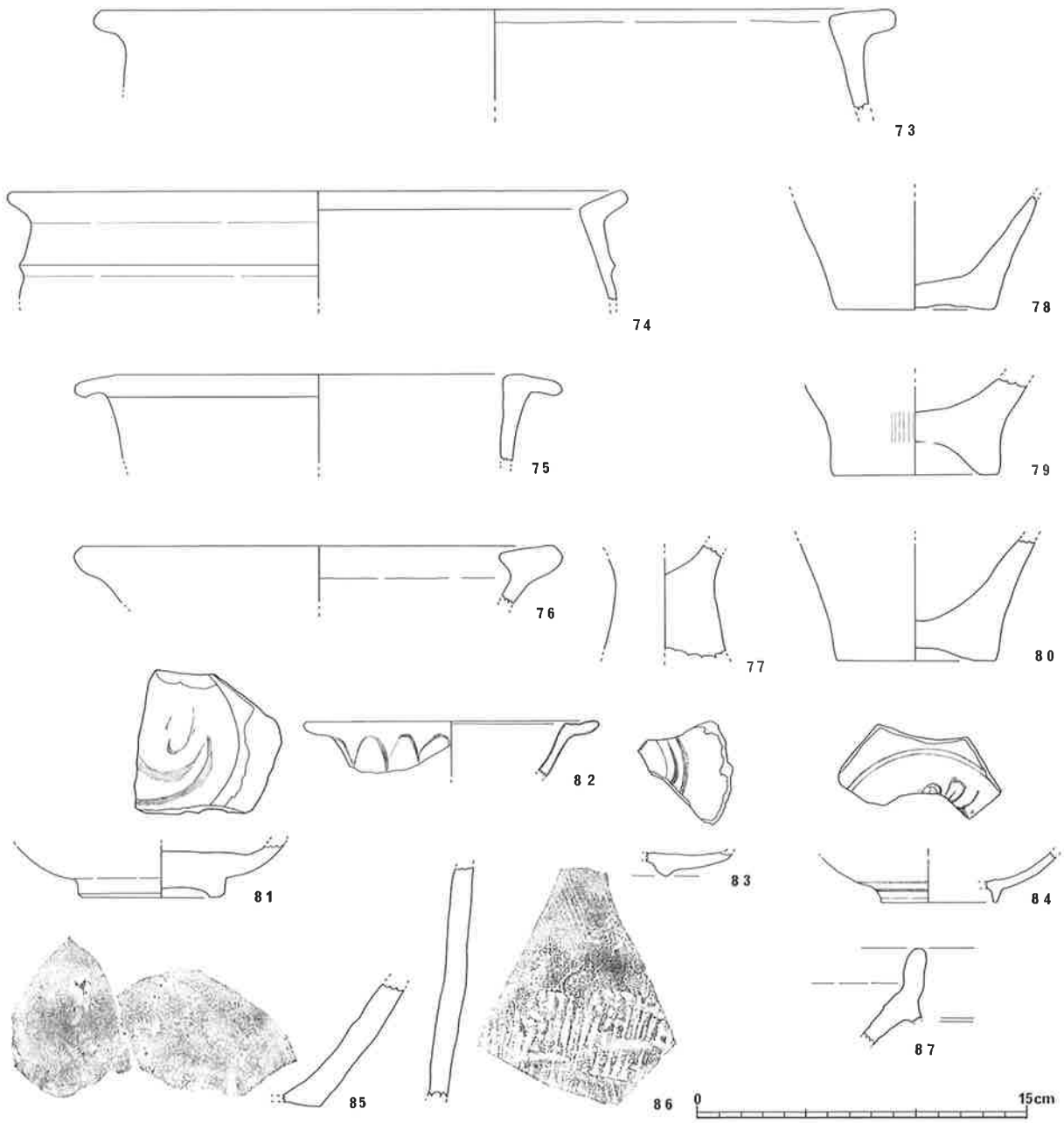


第55図　20次調査区土層・遺構図③(1/40)

7.2cmを計る。Ｔ８Ⅲ層出土。81～87は中世の資料で、81は龍泉窯系青磁碗で内面見込みに片彫蓮花文を有し、外面底部の畳付まで淡緑色の釉が施されている。Ｉ－２類。82は口縁部は短く屈折し上面は若干凹面をなしている坏Ⅲ類で、外面体部に鎬蓮弁文を有し、丸みを持ち内湾気味に立ち上がっている。83は李朝陶器で内面見込みに三重圏の象嵌を有し、胎土は灰色で全面に貫入が走っている。84は染付碗で内面見込みに花文が描かれている。全体に薄く仕上げてあり貫入を見ることができる。外面底部畳付け部は施釉後に釉を掻き取っている。85は瓦質の捏鉢の底部片である。外面灰黒色で内面は淡茶褐色を呈している。内面にハケ目調整痕がある。86は須恵器甕胴部片である。外面は青灰色で叩きが施されている。内面は灰色で、胎土はヨコナデ仕上げで青灰色を呈している。81～86はＴ２土壙出土である。87は陶器で備前焼擂鉢の口縁部である。内面ナデ仕上げされている。Ｔ７Ⅲ層出土である。



第56図　20次調査区出土遺物①(2/3)



第57図　20次調査区出土遺物②(1/3)

第V章　ま　と　め

松浦市では、平成７年度から３ヵ年ずつの継続事業として市内での圃場整備事業、農道整備事業、宅地造成、個人宅地建築などに伴う埋蔵文化財の確認調査を実施している。

今回の報告書に掲載した遺跡は、平成16年度に実施した刈萱城跡・田口高野遺跡・大堤遺跡・長蔵坊遺跡・栢ノ木遺跡と、平成17年度に実施した久保園遺跡（２件）・寺ノ尾Ｃ遺跡・栢ノ木遺跡である。この２年分の報告の中で、重要と思われることについて検討すべき課題を挙げてまとめとする。

栢ノ木遺跡は、市内でも弥生時代の重要な遺跡として位置付けており、試掘調査及び確認調査を継続して実施している。平成17年度の第20次調査までの確認調査や本調査の結果から従来考えられていた範囲よりも広く分布していることが認められ、弥生時代から中世期にかけての複合遺跡であることも確認している。しかし、かつての集落の一部は今では水田地帯として利用されているため、遺物包含層が削平されていたり、厚く堆積した埋土に覆われていたり、当時の集落跡は変化を余儀なくされている現状である。平成12年度に行った試掘調査では堂山古墳と言われている地点で山浦川より北東の水田地帯で圃場整備事業に伴う調査を行っている。この時点では山浦川より以北には分布していないと考えていたが、昭和51年発行の文化庁の遺跡地図では深町遺跡という名称で周知されており、また、平成７年長崎県教育委員会発行の『長崎県遺跡地図－佐世保市・平戸市・松浦市・北松浦郡・東彼杵郡地区－』にはこの深町遺跡が記載されていなかった。しかし、地元の住民からかつて甕棺？が発見されたという情報も入ってきたため、遺跡の有無の確認と栢ノ木遺跡の分布範囲に含まれているのかを確認するための調査を行うこととした。16年度・17年度の調査から遺跡の存在が確認され、弥生時代から中世期の複合遺跡であり、栢ノ木遺跡の集落の範囲に入っていると思われる。今後はこの調査で確認された地点より北側まで分布していることが予測されるため、庄野川までの水田地帯を対象として範囲確認調査を実施していくこととしている。16年度の調査では弥生期と中世期の掘立柱建物跡が集中する地点や、包含層中に中世の人骨片も検出されている。17年度の調査でも弥生期と中世期の掘立柱建物の柱穴が多数検出されている。また、16世紀後半の廃棄物の処理施設と考えられる土壙が２基検出されている。遺物では従来の栢ノ木遺跡と同様に中国産・国内産・朝鮮半島産の陶磁器類が出土している。次年度以降における庄野川までの水田地帯の確認調査に期待したいと思う。

17年度の個人宅地建築に伴う久保園遺跡の確認調査では、弥生期の柱穴が４箇所で確認されたためその保存について協議を行った。その結果、削平される部分の約100㎡の調査を行い記録保存することとなった。調査地点の外周では３基の甕棺墓を検出することができた。ただし、１号甕棺墓は甕の全体の1/10程度の残りで胴部から底部の一部が土壙の底面に張り付いたような状況で確認された。残りの状況から考えるとほかの甕棺墓と比べるとの埋葬角度が違っているため時期差があるのだろうか。２号甕棺墓は１号より南側へ約1.5ｍの地点で検出した。３号甕棺墓は水田の中を南側へ走る溝の末端部で検出した。２号甕棺墓より東へ2.5ｍの地点である。土地所有者も甕があることは認知していたが甕棺墓であることは周知していなかったようである。この２基の甕棺は中期前半に属する時

期と思われる。残念ながらいずれの甕棺からも副葬品は検出されていない。

これまで久保園遺跡は縄文時代の散布地及び輸入陶磁器の散布地として周知されていたが、今度の調査で弥生中期前半の墓域と集落との関係を、また、これまで５基の甕棺墓と６基の石棺墓が検出された対岸の栢ノ木遺跡との関連性を研究する材料を提供してくれた。市内における弥生時代の墓地が確認されている遺跡は、栢ノ木遺跡と池田遺跡があったが久保園遺跡が新たに加わることとなった。今後は松浦市における弥生時代の墓制制度の変遷に登場してくる遺跡となった様である。北部九州の先進地域では、前漢鏡や銅利器をはじめとする青銅器を支石墓や甕棺墓などに多数副葬していることが確認されているが、一方ではすぐ近くにある墓地では200基に近い甕棺墓が検出されているにもかかわらず、青銅器類を副葬した墓が検出されていない。墓地に見られるこのような副葬品の有無による格差は地域の核になる集落と、これに従属する集落との間に明瞭な階層差が生じてきたことの反映であろうと思われる。松浦市における階層差の出現になるのか今後、詳細に分析・研究していきたいと考えている。久保園遺跡の範囲内においては、今後も個人の宅地建築が計画される可能性が十分にあるため、平成18年度から補助事業の一環として栢ノ木遺跡と同様に範囲確認調査を行ってきたいと考えている。

さらに、本年１月１日に北松浦郡の福島町と鷹島町との一市二町による合併が行われ、新しい松浦市が誕生している。特に鷹島町は文永の役・弘安の役で知られている元寇関連遺跡として鷹島海底遺跡が周知されている。これまで床浪地区・神崎地区の港湾工事に伴う本調査や国庫補助事業による確認調査で木製碇・碇石・陶製てつはう・石弾・冑・矢束・元船の船体部分の隔壁板・中国産輸入陶磁器類・漆器類などその出土遺物は約3,000点にもおよんでいる。世界的に知られている遺跡である。現在、松浦市立鷹島埋蔵文化財センターにおいて出土した木製品を中心に保存処理を行っており、松浦市の目玉として、数年後には国指定となるように準備に取りかかって行くことになった。今後のさらなる調査と国指定に向けての活動の充実を図っていきたいと考えている。

参考文献・引用文献

正林　護　1973　『栢ノ木遺跡（中間報告）』　松浦市教育委員会

正林　護　1997　「栢ノ木遺跡」『原始・古代の長崎県　資料編Ⅱ』　長崎県教育委員会

松尾昭子　2005　『鷹島海底遺跡ＸＩ　鷹島海底遺跡内容確認発掘調査報告書５』　鷹島町文化財調査報告書第10集　長崎県鷹島町教育委員会

図　　版

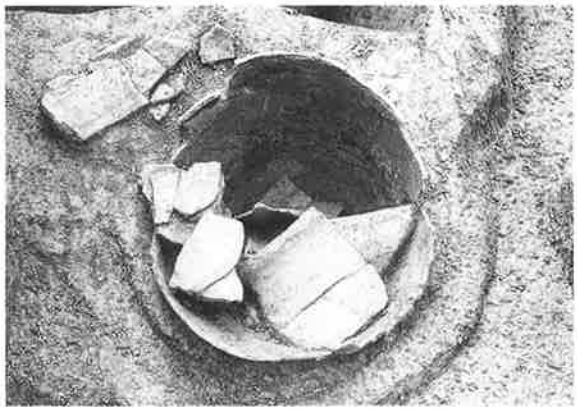
図版１

刈萱城跡５次Ｔ２北土層

図版２

田口高野遺跡４次Ｔ３東土層

図版３



大堤遺跡Ｔ６近世埋甕検出状況

図版４

大堤遺跡Ｔ６近世埋甕検出状況

図版５

大堤遺跡Ｔ７土壙検出状況

図版６

長蔵坊遺跡Ｔ４北土層

図版７

栢ノ木遺跡19次Ｔ３東土層

図版８

栢ノ木遺跡19次Ｔ２遺構検出状況

図版９

栢ノ木遺跡19次Ｔ６遺構検出状況

図版10

栢ノ木遺跡19次Ｔ９遺構検出状況

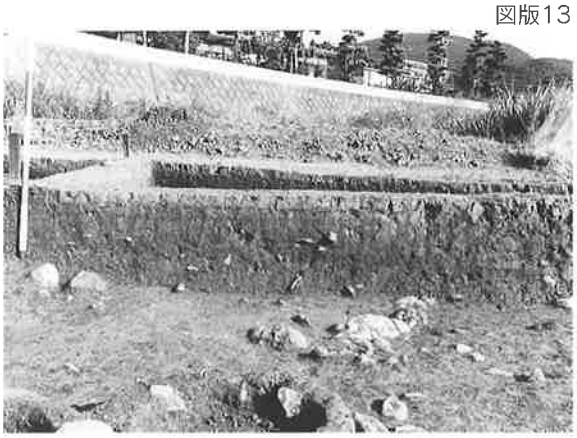
図版11

栢ノ木遺跡19次Ｔ３人骨検出状況

図版12

久保園遺跡２次Ｔ３東土層

図版13

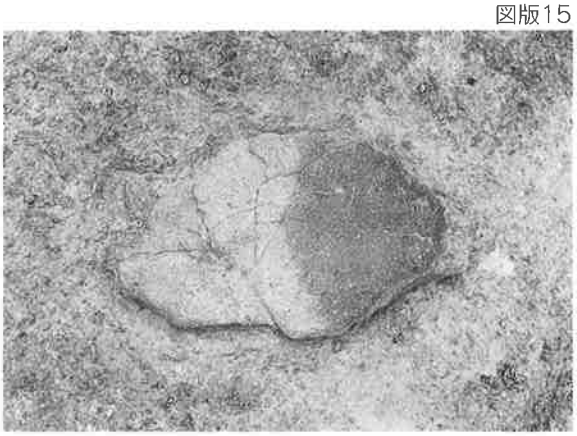


久保園遺跡３次Ｂ４東土層

図版14

久保園遺跡３次遺構検出状況

図版15



久保園遺跡３次１号甕棺墓検出状況

図版16

久保園遺跡３次２号甕棺墓検出状況

図版17

久保園遺跡３次２号甕棺墓検出状況

図版18

久保園遺跡３次３号甕棺墓検出状況

図版19

寺ノ尾Ｃ遺跡５次Ｔ９北土層

図版20

栢ノ木遺跡20次Ｔ２東土層

図版21

栢ノ木遺跡20次Ｔ６東土層

図版22

栢ノ木遺跡20次Ｔ８北土層

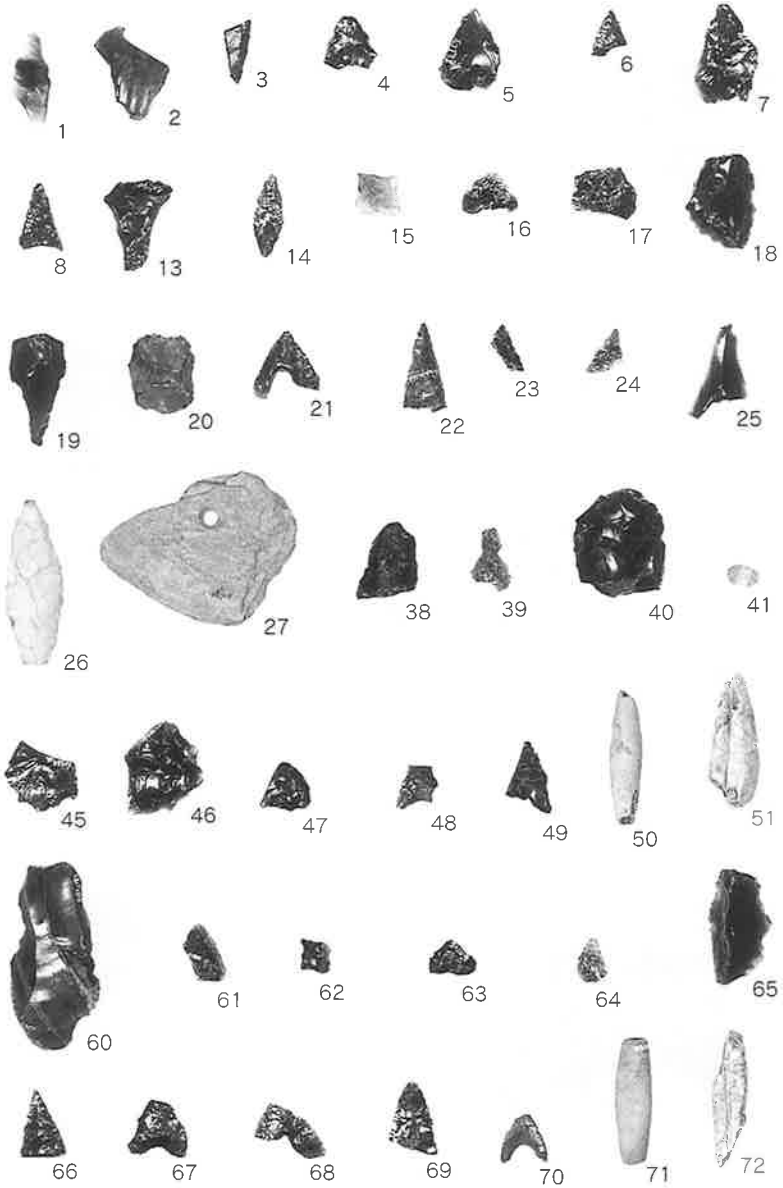
図版23

栢ノ木遺跡20次Ｔ２土壙検出状況

図版24

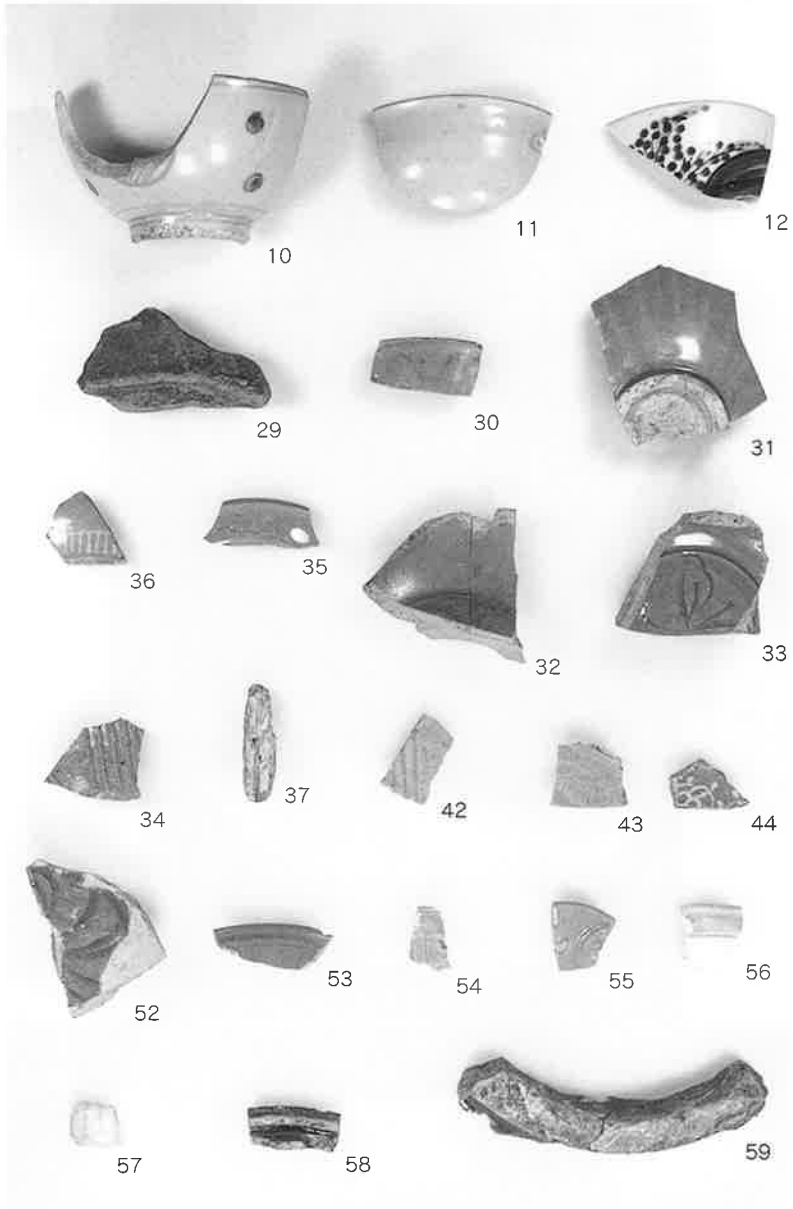
栢ノ木遺跡20次Ｔ６遺構検出状況

図版25



出土遺物①

図版26

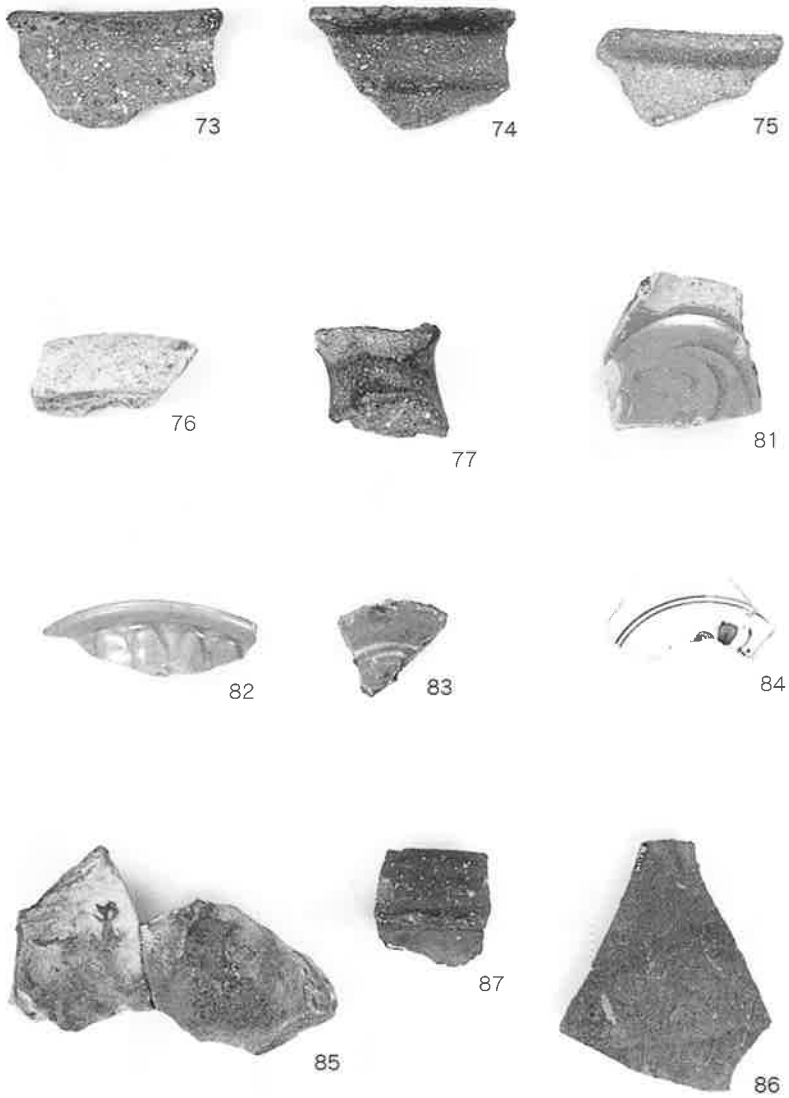


出土遺物②

図版28

出土遺物④

図版27



出土遺物③

松浦市文化財調査報告書 第21集

松浦市内遺跡確認調査(6)

平成18年３月31日

発行　松浦市教育委員会
長崎県松浦市志佐町里免365番地

印刷　株式会社　三　光
佐賀県伊万里市大坪町乙4161-1